



# 21世紀石川少年の翼

## 交流事業報告書

2025

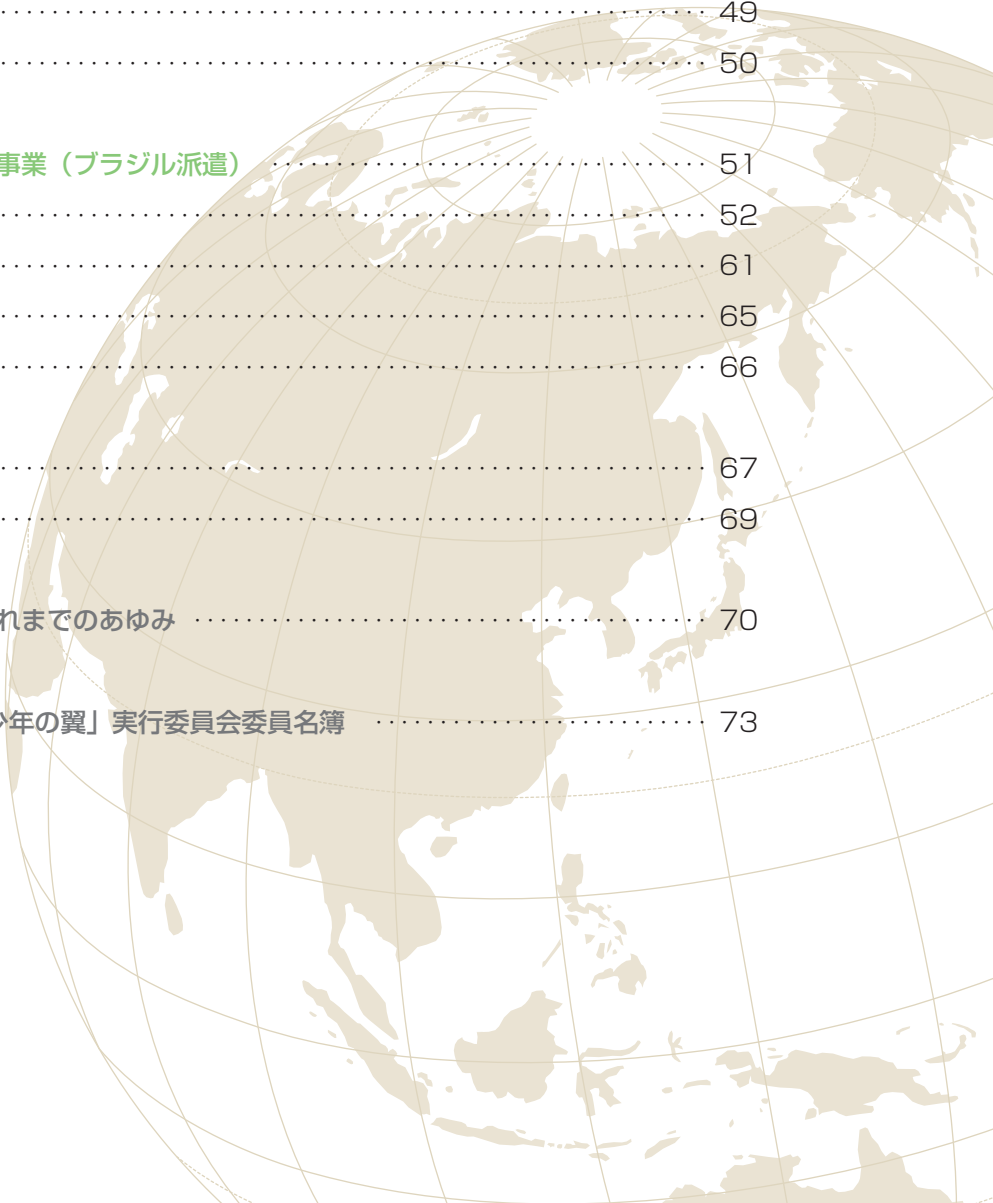




# 目 次

## C O N T E N T S

<b>I 韓国・全北特別自治道青少年交流事業（派遣）</b> .....	1
◦ 私たちのレポート .....	2
◦ 交流の思い出 .....	11
◦ 研修を振り返って .....	19
◦ 色紙よせがき .....	20
◦ 資料編	
日 程 .....	21
名 簿 .....	22
<b>II 中国・江蘇省青少年交流事業（受入）</b> .....	23
◦ 交流の思い出 .....	24
◦ 訪問を終えて .....	33
◦ 資料編	
日 程 .....	49
名 簿 .....	50
<b>III 海外県人会青少年育成交流事業（ブラジル派遣）</b> .....	51
◦ 私たちのレポート .....	52
◦ 交流の思い出 .....	61
◦ 研修を振り返って .....	65
◦ 色紙よせがき .....	66
◦ 資料編	
日 程 .....	67
名 簿 .....	69
<b>IV 「21世紀石川少年の翼」これまでのあゆみ</b> .....	70
<b>V 令和7年度「21世紀石川少年の翼」実行委員会委員名簿</b> .....	73





## 韓国・全北特別自治道青少年交流事業（派遣）

期間：令和7年7月25日(金)～30日(水)

### 韓国・全北特別自治道の豆知識

- 位置  
朝鮮半島南西部に位置し、ソウルから約240kmの距離
- 面積  
面積は8,067km<sup>2</sup>
- 人口  
約173万人
- 地方行政区域  
6市、8郡
- 道庁所在地  
チョンジュ  
全州市
- 全北特別自治道ホームページ  
[www.jeonbuk.go.kr/jpn/index.jeonbuk](http://www.jeonbuk.go.kr/jpn/index.jeonbuk)（日本語）

*Jeonbuk State Korea~  
~Ishikawa Japan*

# 私たちのレポート

## 事前研修

### 事前研修

日時 7月5日(土) 10:30～  
7月6日(日) 12:00  
場所 石川県青少年総合研修センター  
内容 団員証交付式  
オリエンテーション  
事前学習  
・ 派遣国について  
・ 語学講座  
・ 学校訪問の出し物決定  
・ 少年の翼OGによる講演



団員証交付式

### 野口 花鈴

金沢市立野田中学校3年

事前研修では最初に団員証交付式をしオリエンテーションした後、自己紹介をしました。そのあとに、報告書の分担や簡単な韓国語練習し、過去参加者による講演がありました。韓国語は日本語と似ている発音もあってゲーム形式でやってくれたのでとても楽しかったです。講演では、韓国よりもっと遠いヨーロッパに行った人に体験談を聞きました。そして交流会での出し物練習をしました。みんなで協力して一から考えることが新鮮で楽しかったです。



出し物の練習



韓国に関する事前学習



7月18日出発前知事表敬

1日目 7月25日(金)

9:45 小松空港集合  
10:30 結団式  
12:00 小松空港発(KE776)

13:55 仁川空港着  
19:00 全州着  
ホストファミリー対面式

### 結団式

場 所 小松空港2階国際線出発ゲート付近  
次 第 団長挨拶 石川県国際交流課長 小田 陽児  
団員代表挨拶 金沢市立野田中学校3年 野口 花鈴



結団式



結団式



飛行機搭乗

### 吉田 香希

加賀市立片山津中学校3年

私たちは小松空港で結団式を行い、団長や代表からのあいさつがありました。いよいよ始まるのだなと実感しました。結団式が終わり飛行機に乗り仁川空港に着きました。驚いたことは飛行機で2、3時間乗るのかなと思ったが、1時間半ぐらいで着いたのでやっぱり隣国は近いなと実感しました。また飛行機の速さに驚きました。韓国に着いたら夕食を食べ、その時にホストファミリーとの対面式がありました。ホストファミリーの方々とはとても明るく話やすかったので緊張がほぐれました。



全州へ移動

## ホストファミリー対面式

場 所 全州市内レストラン

次 第 全北特別自治道外国人国際政策課長挨拶  
団長挨拶

石川県国際交流課長 小田 陽児

団員代表挨拶

石川県立金沢錦丘中学校3年 志田 陽愛



## 柴田 共笑

金沢市立長町中学校2年

7月25日、小松空港で結団式を行い、保護者が見守る中、日本を出発しました。韓国へ到着すると、仁川空港から全州市へ移動してホストファミリー対面式を行いました。対面式ではホストファミリーたちと食事をしました。最初は会話がなかったけど、翻訳アプリを使って会話してみると共通の趣味などが見つかって仲良くなることができました。

でも、本当はもっと聞きたいことや話したいことがたくさんあったのに、翻訳アプリでしか会話できないことがもどかしかったです。日本語が通じない相手とコミュニケーションを取ることの難しさを感じました。



### 北野 はな

金沢市立長町中学校3年

2日目はホストファミリーとともに過ごした夢のような時間でした。朝はホストマザーが手作りしてくれたキンパをいただき、その温かい味が心に沁みました。昼は光州民族博物館、光州市立美術館を訪れ、韓国の歴史や美術に触れました。夜は私が食べたかったカンジャンケジャンのお店に連れて行ってくれました。ご飯泥棒と呼ばれるだけあって、とても美味しかったです。あっという間に過ぎた一日の中で、家族の優しさに支えられ、絆を深められたことが心に残りました。

# 3日目 7月27日(日)

- 14:00 ホームステイ先より集合
- 15:00 淳昌コチュジャン村見学及び体験
- 18:00 夕食



ホストファミリーと集合写真



ホストファミリーとのお別れ



トッポギ作り



## 西村 瑚白

石川県立金沢錦丘中学校3年

韓国でのホームステイが終わった3日目は、コチュジャンのテーマパークを訪れました。建物の中は外よりも涼しく、外気温の影響を受けにくい工夫がされていると知り、昔の人の知恵にとっても感心しました。

体験では熟成前と熟成後のコチュジャンを食べ比べ、味の違いに驚きました。さらに、みんなで食べたトッポッキは、あまり辛くなくとても食べやすく美味しかったです。この見学や体験を通して、伝統を守り続けることの大切さや韓国の食文化の深さを感じることができました。

## 砂上 真子

川北町立川北中学校3年

午前にはホストファミリーと任天堂スイッチでマリオカートをしました。ホストファミリーがプレスレットとアルバムを作ってくれてとても嬉しかったです。午後はメンバーと再会してコチュジャン村に行きました。そこでは、ソースがたくさん展示してあり、魅力的でした。また、四季を感じることができるライトアップされた場所やスポーツができる場所がありました。ボルダリングやランニングマシーンでいい汗をかくことができました。その後、餅をいただき、トッポギを作りました。自分たちで作ったトッポギはとてもおいしくておかわりを何度もしました。夜はOLIVE YOUNGやダイソーに行き、ショッピングをしました。とても充実した一日でした。

## 全北特別自治道庁訪問

場 所 全北特別自治道庁  
 次 第 全北特別自治道対外国際疎通局長挨拶  
 団長挨拶  
 石川県国際交流課長 小田 陽児  
 団員代表挨拶  
 加賀市立片山津中学校3年 吉田 香希  
 懇談



全北特別自治道庁表敬

## 永善中学校訪問

場 所 永善（ヨンソン）中学校  
 次 第 歓迎挨拶  
 団長挨拶  
 石川県国際交流課長 小田 陽児  
 団員代表挨拶  
 川北町立川北中学校3年 砂上 真子  
 交流会（学校見学、Tシャツ作り）



## 米田 莉衣果

星稜中学校2年

ヨンソン中学校では学校見学やTシャツ作りを行い、生徒と一緒に活動する中で交流を深めることができた。普段見ることのない韓国の学校の雰囲気を知り、とても新鮮だった。オンゴウル中学校では韓国の伝統的な遊びを体験し、生徒による音楽やダンスの発表を鑑賞した。自分たちを歓迎してくれている気持ちが伝わり、心が温かくなった。どちらの訪問でも言葉の壁を越えて笑顔で過ごすことができ、韓国の学校生活や文化を学ぶ貴重な機会となった。



永善中学校訪問



昼食



ウォルヨン湿地（文化体験）



オンゴウル中学校訪問（ソーラン節）

### オンゴウル中学校訪問

場 所 オンゴウル中学校

次 第 歓迎挨拶

団員代表挨拶

金沢市立長町中学校2年 柴田 共笑  
交流会（韓国の伝統遊び）



### 志田 陽愛

石川県立金沢錦丘中学校3年

最初に行ったヨンソン中学校では、Tシャツ作りをしたり、ハングル文字の練習をしたりしました。施設や校則など日本との違いにたくさん驚かされました。

次に行ったオンゴウル中学校では、韓国の遊びなどの文化体験をしました。言葉の壁を越えて笑顔で盛り上がることができました。ホームステイ先の子と再会した時に、笑顔で話しかけてくれたのが嬉しかったです。中学校のバンドやダンス部の発表も楽しみました。

どちらの学校でも、私たちが発表した日本のダンス、ソーラン節はみんなが盛り上がってくれてよかったです。学校訪問は短い時間ではあったけれど、交流を通じて友好の大切さや異文化への関心を高めることができ、貴重な体験となりました。



オンゴウル中学校訪問

5日目 7月29日(火)

- 9:00 韓屋村視察(韓服体験、慶基殿見学、伝統工芸体験)
- 12:00 昼食
- 14:00 益山弥勒寺址博物館見学
- 17:00 夕食



韓服体験

橋爪 彩也子

小松市立御幸中学校3年

最終日は様々な体験ができた一日でした。全州韓屋村では、伝統衣装の「韓服」を着て伝統的な街並みを歩きました。色とりどりの韓服で団員と散策した楽しい時間は、思い出に残るひとときです。さっぱりして美味しい冷麺を食べ有名な全州のチョコパイを家族のお土産に買いました。国立益山博物館では国宝の百濟時代の石塔を見ることができ、当時の技術の高さや歴史の深さを改めて感じました。楽しくて学びの多い一日でしたが、明日には日本へ帰ると思うと少し寂しくもありました。



伝統工芸体験

越守 嶺

国立金沢大学附属中学校2年

韓国留学5日目に弥勒寺を訪れ、歴史ある建物や落ち着いた雰囲気の中で、韓国の伝統文化にふれることができました。静かな場所で、心が落ち着くような特別な時間を過ごしました。また、韓服を着る体験もしました。色とりどりで美しい韓服は、とても新鮮で、実際に着てみることで伝統の重みを感じました。どちらの体験も、韓国の文化を深く知るきっかけとなり、とても良い思い出になりました。



益山弥勒寺址博物館見学

8:35 仁川空港発(KE775)

10:20 小松空港着

10:50 解団式

## 解団式

場 所 小松空港国際線到着ロビー

次 第 団長挨拶

石川県国際交流課長 小田 陽児

団員代表挨拶

星稜中学校2年 米田 莉衣果

## 中島 直人

野々市市立布水中学校1年

私たちは5時に起床しホテルから仁川空港に向かいました。朝は出国した後空港の中でコンビニで最後の韓国での食事をとりました。飛行機の中での機内食では我々日本人でも食べやすいような牛肉とお米が合わさった牛丼のようなものとフルーツとお菓子が添えてありました。皆んなとても美味しそうに機内食を食べてました。

小松空港につき帰国し、最後に小松空港のロビーで12名の韓国派遣団と3名の管理員の皆様と一緒に解団式を行いました。



帰国



解団式

# 交流の思い出

かほく市立宇ノ気中学校3年 神尾 幸歩

私は21世紀石川少年の翼の派遣団員になって韓国に行きました。私は韓国に行って、言葉は通じなくても心は通じ合えるということを学びました。それはホームステイで強く感じました。ホストシスターとダンスを練習していた時です。私はずっと翻訳アプリを使ってホストファミリーと会話をしていました。ダンスの練習の時は踊るのに必死でスマホは使えないので、翻訳アプリに頼ることができません。なので、身振り手振りを交えて全身を使って全力で会話しようと思いました。そして自分の想いが伝わったのを感じたとき、とても感動しました。また、相手の伝えたいことが理解できたときの感動も忘れられません。翻訳アプリを頼らず、コミュニケーションをとっていくうちに韓国語で話しかけられてもなんとなく意味がわかった瞬間が多くなった気がしました。この瞬間が増えていくうちに次は声で会話したいなという想いが強くなっていきました。今は毎日韓国語を学んでいます。

韓国伝統料理博物館に行ったとき、受付の人が丁寧に説明をしていただきました。博物館では自分だけの食卓を作るゲームがあったのですが、私はずっと生のタコが食べたいと言っていたので、食卓を選ぶ時にタコの料理を選ぶ度、笑いが起きました。最終的にはタコまみれの食卓ができて、みんなで大爆笑しました。また、家で家族の名前を教えて貰っていたときも笑いが起きました。私は、お父さんと子どもは同じ苗字で、お母さんだけ苗字が違うということを知らず、お父さんの苗字とお母さんの名前をくっつけて呼んでしまいました。みんな崩れ落ちて笑い転げました。日本と全然違う文化に楽しく触れることができ、本当に良かったです。このように、韓国に行ったことでたくさんの楽しい思い出ができました。ホストファミリーや現地の中学生、派遣団員との仲がすごく深まったので新しい人間関係を築くことができ、新しい価値観や見方を学びました。

また、私はもともと辛いものがほとんど食べられなかったのですが、この5泊6日で辛いものへの耐性がつき、辛い食べ物には辛いだけでなくその奥に美味し

さがあるということを知れました。辛いものが少し食べられるようになったことや語学をもっと学びたいと思えたことから、韓国での経験はあらゆる面で自己成長に繋がったと思います。最初はとても楽しみで、でも不安も同じくらいあって緊張していましたが、最後はまだ韓国にいたいと願うくらい本当に楽しい思い出であふれていました。韓国でのことを今後の生活など、様々なところで生かしていきたいです。

金沢市立長町中学校3年 北野 はな

今回の韓国派遣は私に素晴らしい経験と深い学び、そして大切な仲間を与えてくれました。6日間という短い時間でしたが、心から成長を感じられる旅でした。出発前は「仲間と打ち解けられるだろうか」「韓国の人々は私たちを心よく受け入れてくれるのだろうか」といった不安でいっぱいでした。しかし韓国に足を踏み入れた瞬間、目に映る景色も聞こえる言葉もすべて韓国語で、憧れの世界に来られた喜びに胸が躍りました。

一番思い出に残っているのはホストファミリーとの時間です。手作りのキンパや食べてみたかったカンジャンゲジャンを味わい、温かいもてなしに心が満たされました。また、勉強した韓国語を使ってコミュニケーションをとることができ本当によかったです。互いに質問をし合い、日本と韓国の文化を深く知ることができました。ホストファミリーの皆さんには本当に親切にさせていただいて、別れのときには胸がいっぱいになり、涙が溢れました。

団員のみんなと体験した活動も忘れられません。韓服を身にまとい韓屋村を歩いたときは、まるで昔にタイムスリップしたようで感動しました。コチュジャン村での料理体験や、中学校訪問での交流も印象に残っています。韓国の生徒たちはとても明るく、積極的に話しかけてくれ、国を越えて友情が芽生えたことが嬉しかったです。

この派遣を通して、国や言葉が違っても心を開いて歩み寄れば壁はなくなるのだと実感しました。韓国と日本は似ているようで違いも多く、互いに良いところ

を尊重し合うことが大切だと思いました。今回学んだことを周囲に伝え、両国の架け橋になれるよう努力したいと思います。

最後に、今回の旅でお世話になった管理員の皆さん、道庁のみなさん、ホストファミリーのみなさん、本当にありがとうございました！

国立金沢大学附属中学校2年 越守 嶺

僕は夏休みの間、21世紀石川少年の翼の団員として5泊6日で韓国の全北特別自治道へ行きました。滞在中の最初の2泊はホームステイで過ごし、その後の3泊はホテルに宿泊しました。

ホームステイでは、現地の家族と生活を共にし、韓国の家庭の温かさや日常の暮らしを間近に感じることができました。食卓を囲みながら言葉を交わし、家族の一員のように受け入れてもらえたことは、大きな安心感となりました。韓国の伝統的な料理のキンパを一緒に作りながら、食文化の違いを肌で感じる貴重な体験もしました。生活習慣の細かな違いに戸惑うこともありましたが、それらを通じて自分の視野が広がっていくのを実感しました。

また、ホームステイ中には、現地ですでにできた友達とカラオケに行く機会もありました。最初は言葉が通じず緊張していましたが、歌を通じて自然に打ち解け、一緒に笑い合うことができました。好きな歌を教え合ったり、韓国のポップソングを歌ったりする中で、音楽が言葉以上に人をつなげる力を持っていることを感じました。この体験は、異文化交流の楽しさや友情の大切さを改めて教えてくれました。

後半の3泊はホテルでの滞在となり、自由に街を散策する時間が増えました。観光地を訪れたり、現地のカフェで友人と韓国語で会話を楽しんだりする中で、語学力が実際の生活で役立つことを実感しました。ホテルでの生活は自立心を育て、自分で計画を立て行動する力を磨く良い機会となりました。

そして、食文化は今回の韓国滞在での大きな魅力のひとつでした。キムチやトッポッキ、ビビンバといった韓国料理は、日本のものとは違った味わいがあり、

特に辛さと独特の調味料の組み合わせに驚かされました。ホームステイ先で教わった家庭の味は特別で、料理を通じて文化の深さを改めて実感しました。

5泊6日と短期間ながらも、異なる文化や価値観に触れ、言葉の壁を乗り越える喜びや苦労を経験しました。ホームステイとホテルでの両方の生活を経験したことで、現地の人々と深く関わることの大切さや、自立して行動する力の重要性を学びました。

今回の経験は、自分の人生にとってかけがえのない財産です。これからも異文化理解を深め、多様な価値観を尊重できる人間として成長していきたいと思えます。そして、将来的にはもっと多くの国を訪れ、多くの人と交流し、広い視野を持った人間になりたいと強く感じています。

最後に、今回お世話になったホームステイ先や県職員の皆様、一緒に過ごした団員そして送り出してくれた家族に感謝いたします。

石川県立金沢錦丘中学校3年 志田 陽愛

2025年夏、最大の挑戦。それが石川少年の翼の韓国派遣でした。団員に選ばれたと知ったときは驚きで言葉が出ませんでした。持ち物の準備や韓国についての事前勉強は大変でした。それ以上に韓国へ行けることが嬉しくて、面倒くさがりな私でも、前向きに取り組むことができました。

わくわくと不安を抱えて、飛行機に乗り込みました。窓から見える景色に興奮が抑えられず、眠気も来ず、到着があっという間に感じました。それから目に映る全てが、新鮮で、キラキラ輝いて見えました。道にあふれるハングル文字や、初めて見る料理や風景には、心が躍りました。

ホームステイでは、最初は団員たちと離れるのが心細かったです。でも、一つ年下のハランちゃんと翻訳機も使いながら、夜中まで好きな食べ物や趣味の話で盛り上がり、すぐに打ち解けることができました。不安はいつの間にか消えていました。一緒に繁華街へ行って、韓国屋台の食べ歩きや買い物、韓服体験などをして、楽しいたくさん思い出ができました。夜は

親戚の方々とサムギョプサルを囲み、本当の家族のようにたくさん可愛がって頂いて、嬉しかったのを覚えています。ですが、思っていたよりずっと早く、別れの時がやってきました。寂しい気持ちでいっぱいだったけど、お母さんが「あなたはもう家族の一員だよ」と言って、抱き締めてくれて、涙が出るほど嬉しかったです。たくさん素敵なプレゼントも頂きました。でも、皆さんに出逢えたことが、私にとって一番の宝物です。

その後も、コチュジャン作りや韓服体験、歴史博物館での学習を通して、食文化や歴史への理解が深まりました。時間を忘れる程あっという間な6日間でしたが、発見の連続で、たくさん素敵な思い出を作ることができました。

今回の派遣で、実際に訪問したからこそその学びや気づきがたくさんありました。その中で、私が最も感じたことは、人と人は心と心でつながっていると気づけたことです。言葉が通じなくても、気持ちは通じ合える。身振り手振りや笑顔、好きなもの、ことを通じて分かり合えると実感しました。これは私にとって、ささいなことだけど、大切な気づきになりました。通して得た学びを大切に、これからもいろいろなことに挑戦していきたいです。

最後に、私に素敵な出逢いと、最高の夏の思い出を作ってくださったのは、団長や通訳のスミンさん、ガイドさんなど、支えてくださったすべての方々のおかげです。本当に感謝しています。

そして、団員のみんな。時には意見がぶつかることもあったけれど、お互いを思い合える素敵な仲間と過ごした6日間は、一生の宝物です。本当にありがとう。

金沢市立長町中学校2年 柴田 共笑

私は21世紀少年の翼で5泊6日を韓国で過ごして、本当にたくさん思い出をつくることができました。そして、いろんなことに気づけたし、感じる事ができました。

まずは、韓国の人々のあたたかさです。ホストファ

ミリーは花束や手紙、プレゼントを用意してくれてとても優しく接してくれたし、コンビニの店員さんは私が日本から初めて韓国に来たことを知ると「お金はいらないからね。」と言ってジュースをくれました。韓国の中学生たちも、ソーラン節を見てよく分からなかったかもしれないけど笑顔でたくさん盛り上げてくれたり、「インスタありますか?」「このグループ知ってますか?」と積極的に会話してくれたり、頑張って日本語を喋ってくれたことがとても嬉しかったです。韓国で出会った人々はみんな素敵な人で、私にとって初めての海外が最高の思い出になりました。

次に、韓国と日本の文化の違いに気づけたことです。まず最初に感じたのは食べ方です。飛行機で機内食を食べている時まわりから口を開けて食べる音が聞こえました。それは日本人の私にとっては少し不快に感じたし、びっくりしたけど、韓国ではこれが普通なんだなと思ったし、文化の違いを実感できました。そして特に驚いたのは学校で、日本の中学校とは違って制服の子もいれば私服の子もいるし、女の子はほとんどはバチバチにメイクしてたし、みんな学校でスマホ持っててびっくりしました。好きな服を着て、好きな見目で勉強できるのはとても良いなと思いました。

最後は、団員のみんなと仲を深めれたことです。最初は全然知らない子と韓国で5泊6日も過ごすなんて、友達もできるか分からないのに楽しめるかなという不安があったけど、会ってみるとみんな明るくていい人で、事前研修も含めて本当に楽しかったです。みんなで出し物を考えたり、ご飯を食べたり、買い物に行ったり、話したりしたことが全部最高の思い出になりました。

私は少年の翼で本当に多くのことを学べたし、めちゃくちゃ楽しかったです。少年の翼に参加できて良かったし、ここで得た経験をこれからの人生に生かしていきたいです。

川北町立川北中学校3年 砂上 真子

私はこの夏、5泊6日の韓国研修に行きました。この韓国研修では、新たに学んだことがたくさんありま

した。その中でも特に印象に残っていることはホームステイです。初めは言語や文化が私たちとは異なるので不安と心配で胸がいっぱいでした。しかし、お互いの文化や趣味を話していくうちに異文化の障壁はなくなっていました。私はホストファミリーの女の子と共通のを見つけました。それはK-POPアイドルが好きということです。お互いに好きなグループの動画を見せ合いっこして楽しい時間を過ごしました。私は以前から韓国のプリクラを撮ることにあこがれていました。ホストファミリーにプリクラを撮りたいと言ったら連れて行ってくれました。ホストファミリーの方は本当に優しいです。韓国のプリクラは日本のものよりも加工がうすかったです。

次の日、ホストファミリーの親せきの誕生日パーティーに行きました。そこでは、子供たちがいっぱい水遊びをしました。大人も混ざって一緒に遊んでいたのが親せきのつながりの深さを感じました。夜はBBQやお散歩をしてとても充実した一日を過ごしました。また、韓国料理はとてもおいしいものがたくさんありました。トッカルビというハンバーグのような肉料理はジューシーで食べ応えがあってごはんによく合うのでとてもおいしかったです。絶対にまた食べたいです。

学校交流では、日本との違いをたくさん感じました。まず、一番驚いたことは中学校の屋上に大きな望遠鏡が何台もあることです。また、保健室が広く、相談室も充実していることから韓国の中学校は発展していますすごいと思いました。私たちは日本の曲のダンスを披露しました。韓国の生徒たちはリズムに乗ってくれたり、かけ声をしてくれたりしてくれて嬉しかったです。韓屋村では韓服を着て回りました。韓服はとても美しくみんなで写真を撮りたくさん撮りました。韓屋村には伝統的な寺やお土産屋があり、雰囲気がとても良かったです。

私はこの韓国研修で異文化への適応力やたとえ言語や文化が違ってても理解し合うことができるということを知りました。韓国研修はあっという間でしたが、世界が広がった気がします。この経験を大切に、これからも成長していきたいです。

この韓国派遣で学んだことは私にとってとてつもなく大きな経験であり気づきでもありました。韓国で経験した素晴らしい事の中でも特に印象に残っているのは現地のホームステイです。僕は海外に住んだことがありそこでは言語の壁や文化を経験しましたが、まだ本当の現地のローカルな雰囲気や文化や価値観を知ることができていなかったと思います。そのため韓国の滞在期間でより自分が興味を持ったことや知りたいことを深めていきたいと感じていました。

ホームステイの1日目では夕食の会場からホストファミリーの家に向かうときには正直に言ってかなり緊張していました。異国の地でホームステイをすることはとてつもなく価値のあることだとおもいながらもこれからの不安もありました。ですが僕のホストファミリーは温かく僕に「英語できる？」と言ってくれて幸い僕は英語を学んでいたのホストファミリーの同年代の子と将来行ってみたい国や韓国の日常について聞くことができました。家に着いたらデザートを用意してくれて、日本の文化や日本のことについて話して親睦を深めることができました。

2日目は孔子が教えていたという学校やカフェ、市場やサイエンス館、現地のスーパーなど様々なところへ連れて行ってくれました。そこでは韓国がどのような歴史を歩んできたのかや韓国のグルメを食べたり現地のスーパーでお土産を買ったりと様々なことをしました。そして夕食では韓国の伝統的な料理がたくさんある店に連れて行ってもらいました。そこで日本では食べられないようなエイの蒸し焼きや少しクセが強い魚を食べたりしていました。その魚はホストファミリーでさえ苦手だそうで、僕も食べてみましたが少し臭みがありました。そこで日本にも同じような納豆というクセが強い食べ物があるんだよと説明したら笑ってくれました。

そしてみんなの集合場所に向かう最中の車の中では1日目の大きな不安はいつの間にかホストファミリーと別れることに対するの悲しみに変わっていました。

このような体験を通じて僕が持った考えは異文化を

持つ人でも優しく日本人と同じように接することができるればよりグローバルな視点を持つことができるということです。そして自分の視野が広がり、さらに人生が豊かになると思いました。

これからの将来、海外でより様々な考えや文化、宗教を持った人に出会おうと思いますが、日本をものさしとして考えるのではなく「そういう考えもあるんだ」と受け止めて、交流を深めていきたいです。

石川県立金沢錦丘中学校3年 西村 瑚白

私が韓国へ行きたいと思ったきっかけは、昨年「石川少年の翼」で韓国の中学生をホームステイとして受け入れたことでした。私と同じ年の女の子で、短い間でしたが一緒に生活する中で仲良くなり、韓国の文化や生活を教えてもらううちにもっと韓国のことを知りたいと思うようになりました。その経験が、今度は自分が韓国へ行ってみたいという気持ちにつながりました。

出発の日、楽しみで胸がいっぱいになるのと同時に、自分の英語がどこまで通じるのか、文化の違いに対応できるかなど不安な気持ちが大きくなっていきました。しかし、ホストファミリーと対面したとき、ホストファミリーが翻訳機を活用したり英語を使ったりして優しく話しかけてくれたおかげで緊張が和らぎました。また、ホストファミリーが、知っている日本語を使って一生懸命話しかけてくれたことが嬉しくて、私も少しでも自分の気持ちを英語や簡単な韓国語を使って伝えてみようという勇気をもらえました。ホストファミリーはホームステイ中に私を全州韓屋村や私が行きたかった韓国のダイソーにも連れて行ってくれました。韓国の飲食店ではご飯を食べるとき、必ずたくさん副菜が出てくることにはとても驚いたけれど、サムギョブサルやプルコギなどの韓国料理もとても美味しかったです。3日間という短い期間でしたが、忘れられない思い出になりました。ホストファミリーが日本に来たときは私が石川の魅力をたくさん伝えられるようこれから石川のこともしっかり勉強していきたいと思いました。

ホームステイ終了後は、発酵食品について学んだり、コチュジャンを作ったり、全北特別自治道の2つの中学校と交流しました。全北特別自治道の中学校を訪れると、みんな優しく接してくれて、とても嬉しかったです。

今回の「石川少年の翼」の活動を通して、私は言葉や文化の違いを乗り越えることの大切さを学びました。最初は不安もあったけれど韓国訪問を共にした仲間やホストファミリーとの交流を重ねるうちに相手の気持ちを理解しようとするのが何よりも大切だと気付かされました。今回の経験をきっかけにこれからも異なる国や文化に積極的に触れ、自分の世界を広げていきたいと思えます。

最後に今回の派遣に関わってくれたすべての方々に感謝しています。このような素晴らしい機会、貴重な経験を本当にありがとうございました。

金沢市立野田中学校3年 野口 花鈴

今回の韓国派遣団員として過ごした5泊6日間は私にとってとても貴重な体験となったと思います。

派遣での1日目は、結団式での挨拶もあり、とても緊張していました。何回も持ち物リスト確認して荷物を詰めたはずだったのに、制服を忘れてしまうという失態をおかしました。空港で気づきなんとか親や空港の係の人に迷惑をかけて持ってきてもらいましたが、自分だけでなく親にももう一度確認してもらえばよかったなと反省しました。

飛行機の中では言葉の通じない国での生活に不安がありましたが、それ以上に未知の生活スタイルや食事に対する期待や興奮がありました。韓国に着いてホストファミリーの方と会い、暖かい笑顔にまずホッとしました。大型スーパーやミュージカルに連れて行ってもらいました。初めて会った人と言葉が通じない中で生活することに大変さを感じ、ホストファミリーの温かさがとても心にしみました。2日目は、オーブヤングやダイソー、オペラなどたくさんの場所に連れて行ってもらいました。韓国のご飯はとても美味しく食べたことのない物にも挑戦できました。3日目のホス

トファミリーとお別れするときは、とても寂しく、もっと一緒にいたかったと思いました。その後、トッポギとコチュジャン作りをしました。実際に作ってみて時間をかけて作られている事がわかりました。持ち帰ったコチュジャンを使った母が香りがとても良いと喜んでいたので、本場の味は違うんだなと思いました。4日目は表敬訪問に現地校へ行きました。私の学校よりも、IT技術が進んでいたり、保健室の先生が薬を処方できる資格を持っているなど、興味深かったです。みんなで練習したソーラン節を踊ったことは、緊張したけども達成感がありました。5日目は韓服体験、資料館で昔の土器や建物を教えてもらいました。似ているところもたくさんあり、韓国の技術や風習が日本に伝わったことも実感しました。6日目は空港で朝ごはんを食べて飛行機に乗って日本に帰りました。もう帰る日になったのかと、名残惜しい気持ちで帰路につきました。

この体験は普通の旅行だとできないホームステイや表敬訪問が入っていたので、とても充実した6日間でした。この経験をもとに外国に行く楽しさと多言語を学ぶ面白さを大切にしたいと思います。そして、今回のような派遣はとてもいい経験になることがわかったので、もっと活発に交流して、他国との懸け橋になれるように頑張りたいです。去年は韓国、今年は中国から家にホームステイの人が来ました。このように行き来する機会は、お互いの国を知るととても良い機会になると思います。私も、また他の派遣にも参加して、新しいことを学んでいきたいと思っています。

小松市立御幸中学校3年 橋爪 彩也子

今回の韓国研修では、文化、歴史、そして現地での生活交流を通して、たくさんの学びと感動がありました。

初日は小松空港を出発し、仁川空港からバスで全州市へ。ホストファミリーとの対面式ではとても緊張していましたが、アリンの温かい笑顔と優しい言葉に安心し、不安はすぐに消えました。夕食のあとは「ソルビン」という人気店のかき氷を食べ、日本のものと

は違う牛乳の氷やフルーツたっぷりのトッピングに驚きました。

次の日はアリンと一緒にバスでキャラクターグッズのお店へ。バスを1本逃してしまいましたが、バス停に送風機があり涼しい風が出てきたことにとってもびっくりしました。その後、昼食としてカルグクスを食べました。辛い物が苦手な私のためにアリンが唐辛子なしのカルグクスを選んでくれ美味しく食べることができました。午後は全州の有名な韓屋村を訪れ、昔の韓国の制服を着て街を歩いたりレトロな博物館でゲームやカルメ焼き作りを体験したりと、思い出がいっぱいできました。夜は夜市場でステーキを買い、環境に配慮された水素バスでダイソーへ行きました。韓国ダイソーでの日本のグッズの多さも興味深かったです。帰り道では学校の話や聞いた話、家では妹の誕生日をアイスクリームでお祝いしたりと、本当に家族の一員のように過ごせたのが嬉しかったです。そして拙いながらもこれまで勉強してきた韓国語を使ってホストファミリーのみんなと交流できたことはとても貴重な体験でした。夜遅くまでたくさん話し翌朝は寝坊してしまいましたが、ホストマザーが作ってくれたキンパを持って道庁でお別れしました。アリンとの別れは寂しかったですが、心のこもった交流は一生忘れません。

その後も学校や道庁訪問、文化体験を通してたくさんの学びがありました。特に中学校訪問では、韓国の中学生たちと一緒に伝統的な遊びやゲームをしたりお互いにダンスや歌などを披露したりする中で交流が生まれ、言葉が違っても心は通じるということをもっと実感しました。

小松空港に戻り解団式を終えたとき、韓国で出会った人たちや体験した一つ一つが思い出され名残惜しさとともに胸がいっぱいになりました。この研修を通して、文化の違いを超えて人とつながる大切さ、そして行動することで世界が広がることを学びました。またコミュニケーションでは、間違いを恐れず韓国語やジェスチャーを使って積極的に関わろうとすることにより良い関係が築けたと思います。しかしやはり翻訳アプリや今自分が知っている言葉だけでは思いを明確には説明できずもどかしいことも多々あったので、これからもっと語学の勉強を頑張って自分自身の言葉で

気持ちや考えを伝えられるようになりたいと思いました。この経験で得た学びを今後の自分の成長に生かしていけるよう頑張ります。

加賀市立片山津中学校3年 吉田 香希

僕は初めての海外で、わくわくの気持ちがありましたが不安な気持ちのほうが大きかったです。ただ、事前研修で仲間と会い、とても仲が深まりました。不安の気持ちが薄れ、早く行きたいなという気持ちが大きくなりました。韓国に行く当日、小松空港に集合しました。僕は初めての空港だったのでとてもワクワクと緊張、両方の気持ちでした。また、飛行機の手続きが複雑だったことがとても印象に残っています。驚いたことは飛行機で2、3時間乗るのかなと思ったけど、1時間半ぐらいで着いたことです。やっぱり隣国は近いなと実感し、行ける機会にまた行きたいとも思いました。

そして、韓国に着いたら夕食を食べ、その時にホストファミリーとの対面式がありました。僕たちのホストファミリーはとてもやさしく明るい家族でした。朝ごはんはキムチが出てきました。キムチの種類がとてもあって食べてみると全部おいしかったです。そして僕たちが最初に向かったのは韓屋村です。韓屋村では本作りをしました。その本は韓国での最初の本でとても興味深かったです。次に向かったのは僕たちがどうしても撮りたかったプリクラです。韓国のプリクラと日本のプリクラの違いは天井にカメラがあることや、加工がないということです。そしてホストファミリーの子とその友達と僕たちでカラオケにも行きました。ホームステイ最後の日に朝食と昼食を一緒に食べ、ホストファミリーの人と別れを告げました。充実したホームステイとなりました。ホストファミリーの方々本当にありがとうございました。夕食はトッポキづくり体験をしてとても良い経験になりました。次の日、バスで向かったのは全北特別自治道対外国際疎通局長のベクさんのところです。次に行ったヨンソン中学校ではTシャツ作りと学校紹介の後、僕らの出し物をしました。5日目の韓屋村では韓服を着て見学しまし

た。韓服はとても暑かったけど初めての経験をすることができました。タッカルビや冷麺も美味しかったです。買い物ではチョコパイのお店や、スターバックスに行きました。その日のホテルではみんなといろいろなことを話しました。最終日は飛行機に乗り、解団式を行い、仲間と別れました。

韓国ならではの食事、建物、文化などの経験、現地の人との交流はどれも新鮮で思い出深いものとなりました。一緒に行ったみんなと仲を深められたことが一番の思い出です。今回の少年の翼で一番に学んだことはチャレンジすることの大切さです。正直、不安や心配なことだらけで背中を押され、応募した部分もありました。しかし、周りの人の優しさもあって、思い切ってやってみると楽しいことや学べる事、いろいろな出会いがあるということを実感しました。本当に良い経験をすることができました。今後の生活や進学、就職の時もチャレンジする気持ちを忘れないでいきたいです。お世話になったみなさん、本当にありがとうございました。

星稜中学校2年 米田 莉衣果

今回の韓国留学では、本当にたくさんの経験をすることができた。最初に体験したのはホームステイだった。到着したときは言葉がちゃんと通じるか不安で緊張していたけれど、ホストファミリーが笑顔で迎えてくれて安心した。歳の近いガヒョンとはすぐに仲良くなり、一緒にボードゲームカフェに行ったり、カラオケで歌ったり、脱出ゲームに挑戦したりした。最初はほとんど韓国語を話せず翻訳アプリを使うことが多かったが、身振り手振りで伝えたことが相手に通じたときは本当に嬉しかった。言葉が全部わからなくても、人と人は気持ちでつながれるんだと感じられたことは大きな思い出になった。食事ではスンドゥブや辛いパスタ、辛い味噌汁などを食べ、日本ではあまりない辛さに驚いたけれど、それも新鮮な体験だった。淳昌発酵観光財団では観光だけでなく、サッカーやランニングマシーンで体を動かすこともできて楽しかった。昼ご飯に食べたキンパや韓国の餃子、トッポギは

どれも美味しくて、韓国らしい食事を味わうことができた。夜には研修生のみinnでオリーブヤングに行き、日本でも人気の韓国コスメを実際に見ることができてワクワクした。他にも、国際機関の大使表敬に行ったり、ガヒョンの通うヨンソン中学校を訪問してTシャツ作りや学校見学をしたりした。昼食では自分でハンバーガーを作れるお店に行き、とてもボリュームがあって美味しかった。オンゴウル中学校では韓国の伝統的な遊びを体験し、中学生が音楽やダンスを披露してくれて感動した。そのあと食べたビビンバもすごく美味しかった。全州韓屋村ではハンボクを着て歩き、韓国らしい街並みやお寺のような建物を見ることができた。みんなでプリクラを撮ったのも楽しい思い出だ。食事では冷麺や韓国風ハンバーグを食べ、お土産にチョコパイ専門店のチョコや伝統的なキーホルダーを買った。最後に食べたチーズ入りのトンカツは日本と少し違っていて、とても美味しかった。

この留学では、学校や観光だけでなく、人との出会いや食べ物、遊びを通して韓国を体験することができた。最初は不安だったけれど、振り返ると楽しいことばかりで、忘れられない思い出になった。これからも今回の経験を大切にして、もっといろんなことに挑戦していきたい。

### 令和7年度21世紀石川少年の翼 韓国・全北特別自治道青少年交流事業に参加して

令和7年度21世紀石川少年の翼 韓国・全北特別自治道青少年交流事業は、関係者の皆様の温かいご支援、参加された12名の中学生の努力、そしてご家族の皆様のご協力により、無事に大成功を収めることができました。ここに、心より感謝申し上げます。

調和。出発前の事前研修で最初に心に残ったのは、韓国の国旗「太極旗（テグッキ）」の由来を聞いた時のこの言葉でした。文化の調和、自然との調和、過去と未来の調和などを表していると説明があり、皆さんにはこの少年の翼を通して、そういった素晴らしい韓国の文化に触れ、日本と韓国の文化の調和や融合を感じて欲しいなと思っていました。

そして、いざ出発。皆さんはコミュニケーション能力も適応能力も非常に高く、あっという間に韓国での生活に溶け込んでいき、そんな素敵な姿を見る度に“調和”や“融合”という言葉が頭に浮かびました。出発前は、6日間も家族と離れて異国で過ごすこと、しかもホームステイまであり、初めての海外という人もいて、不安でいっぱいだろうと少し心配していましたが、全くの杞憂でした。初めての場所、初めて出会う人達とすぐに仲良くなり、笑顔を見せる皆さんには、このグローバルな社会を楽しく前向きに生きるために必要なエネルギーが溢れていました。一緒に活動していて、何度も嬉しくなり、元気をもらいましたよ。

また、事後研修で、この研修で一番心に残ったことを発表してもらおうと、ホームステイ体験が一番印象的だったという意見が多くありましたね。もっと韓国語を勉強しておけばよかったという声もありましたが、言葉の壁はあっても相手の目を見て聞いていると不思議と相手の思いや感情が伝わってきたり、ジェスチャーを交えて伝えようとする相手に思いが伝わったりという経験は、今後の皆さんの大きな力になると思います。

皆さんがこの報告書に書いているように、この少年の翼では日本では経験できない多くの学びがあったと思います。管理員の私も、全北特別自治道の方々とお話をしながら、韓国が抱えている課題や未来に向けての動きを教えて頂き、多くのことを学びました。例え

ば、このグローバルな時代では、もはや単なる国際交流ではなく多文化共生という視点が必要であり、韓国は他の国からの移民の受け入れにも積極的に動き始めていること、大都市であるソウルに人口が集中し、地方都市の存続が危ういため、真剣にその対策を考えて動いていること等々、国の未来を見据え、広い視野をもって動き出している韓国は、正直、日本の一歩も二歩も先を行っているように感じました。

海外に行ったことがある人は視野が広くなるとは良く言われることですが、この21世紀少年の翼での韓国訪問の経験は、間違いなくこれからの皆さんの大きな翼となります。

この明るく優しく逞しい12人が、これからも様々な場面で活躍し、新聞やテレビでその勇姿を見せてくれるのを楽しみにしていますよ。ずっと応援しています。

(学校指導課 指導主事 西原 範泰)



## 도전은 기회의 문이다

挑戦はチャンスの扉だ

# 色紙よせがき

みんなと一緒に  
行けてとても楽しかったヨ!!  
アリアト〜♡  
まこ

みんな明るくて  
楽しんで最高だった!  
これから  
仲良くしようね!!!  
さちほ

自分にとってはじめての海外だった  
けど、このメンバーといっしょだった!  
めっちゃ楽しかったよー  
これから仲良くしてね♡  
ともえ

みんなと最高の  
思い出作れて♡  
楽しかった!!!  
これから仲良くしてね!!  
さやこ

## 令和7年度



みんなと楽しく  
行けてよかった!  
これからもよろしくね。  
かりん



韓国派遣最高だったよ  
十二人十二色のみんなで行け  
てほんとに良かった!!  
これからも仲良くしようね♡  
はな

みんなと一語に  
最高に楽しい時間を  
過ごせた。  
みんな ありがと!!  
こうき



みんなと行った  
貴重な体験が  
できても楽しかったヨ!  
これからもよろしく!!  
なまこ

みんなでいろんな  
ところに行けて楽しかった!  
6日間ありがとう!  
こはく



## 21世紀 少年の習字

この仲間と韓国に行  
けてよかった!!!!  
これから思い出たく  
さん作ろうね!!  
りいか

みんなと一緒に良い  
思い出を作れたよ!!  
最高に楽しかったよ!!  
これからもよろしく!!  
れい

みんなと行ったから  
韓国行くときの不安をすこ  
す減らしたし、とても楽しかったよ!!  
これからも仲良くしてね!  
友達と行ったヨ!  
だーいすき♡  
ひより

令和7年度「21世紀石川少年の翼」  
(韓国・全北特別自治道青少年派遣団) 日程

	月 日	時 間	日 程	宿 泊 先 等
1 日 目	7月25日 (金)	09:45 10:30 12:00 13:55 15:00 19:00	小松空港集合 結団式 小松空港発 (KE776) 仁川空港着 全州へ移動 ホストファミリー対面式 (夕食会) 各家庭へ移動	ホームステイ
2 日 目	7月26日 (土)	終日	ホームステイプログラム	ホームステイ
3 日 目	7月27日 (日)	14:00 14:00 15:00  18:00 19:30	ホームステイ先から集合 淳昌郡へ移動 淳昌コチュジャン村見学及び体験 (トッポッキ、お餅作り) 夕食 (トッポッキ、餃子) 全州へ移動 ホテル着	Gloucester Hotel Jeonju
4 日 目	7月28日 (月)	9:00 9:30  11:00 12:00  14:00  18:00 20:30	ホテル発 全北特別自治道庁訪問 ・対外国際疎通局長表敬 移動 学校交流 (永善中学校) 昼食 移動 ウォルヨン湿地見学及び文化体験 移動 学校交流 (オンゴウル中学校) 夕食 ホテル着	Gloucester Hotel Jeonju
5 日 目	7月29日 (火)	9:00  12:00  14:00  17:00  21:30	ホテル発 韓屋村視察 ・韓服体験 ・慶基殿見学 ・伝統工芸体験 昼食 益山へ移動 弥勒寺址博物館見学 移動 夕食 仁川へ移動 ホテル着	ゴールデンチュエリップ仁川
6 日 目	7月30日 (水)	6:00 8:35 10:20 10:50	ホテル発 仁川空港発 (KE775) 小松空港着 解団式	

**令和7年度「21世紀石川少年の翼」  
(韓国・全北特別自治道青少年派遣団) 名簿**

**管 理 員**

NO.	区 分	氏 名	所 属
1	団 長	小 田 陽 児	文化観光スポーツ部国際交流課 課長
2	指導員	西 原 範 泰	教育委員会学校指導課 指導主事
3	指導員	李 秀 珉	国際交流員

**団 員**

NO.	学 校	氏 名	学 年
1	かほく市立宇ノ気中学校	神 尾 幸 歩	3 年
2	金 沢 市 立 長 町 中 学 校	北 野 は な	3 年
3	国立金沢大学附属中学校	越 守 嶺	2 年
4	石川県立金沢錦丘中学校	志 田 陽 愛	3 年
5	金 沢 市 立 長 町 中 学 校	柴 田 共 笑	2 年
6	川北町立川北中学校	砂 上 真 子	3 年
7	野々市市立布水中学校	中 島 直 人	1 年
8	石川県立金沢錦丘中学校	西 村 瑚 白	3 年
9	金 沢 市 立 野 田 中 学 校	野 口 花 鈴	3 年
10	小松市立御幸中学校	橋 爪 彩也子	3 年
11	加賀市立片山津中学校	吉 田 香 希	3 年
12	星 稜 中 学 校	米 田 莉衣果	2 年

## 中国・江蘇省青少年交流事業（受入）

期間：令和7年8月21日(木)～26日(火)

### 中国・江蘇省の豆知識

#### ○位 置

中国大陸の東部沿海地方の中心部、長江の下流に位置する。  
東は黄海、南東に上海市、西は安徽省、北は山東省、南は浙江省に接する。

#### ○面 積

10.72万km<sup>2</sup>

#### ○人 口

約8,526万人

#### ○制 度

省が市を、市が県を管轄する行政制度

省直轄市：13

(南京、蘇州、無錫、常州、南通、揚州、鎮江、  
連雲港、塩城、徐州、淮安、泰州、宿遷)

#### ○省 都

南京市

#### ○江蘇省ホームページ

<http://www.jiangsu.gov.cn/>（中国語）



*Ishikawa Japan~  
~Jiangsu Province China*

# 交流の思い出



日本で初めての食事



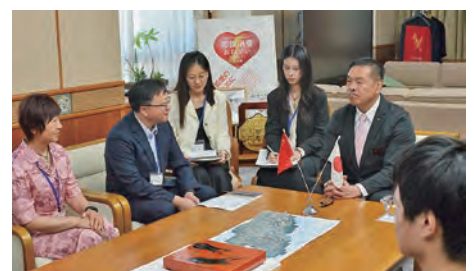
交流会



石川県立図書館



交流会



知事表敬



県庁舎前にて



県庁展望ロビーにて



金沢辰巳丘高校



和菓子作り体験



ホストファミリー対面式 (包くん)



ホストファミリー対面式 (李さん)

ホストファミリー対面式 (李さん)



ホストファミリー対面式（趙さん）



ホストファミリー対面式（林くん）



ホストファミリー対面式（笠さん）



ホストファミリー対面式（桑くん）



ホストファミリー対面式（戴さん）



ホストファミリー対面式（郭くん）



ホストファミリー対面式（王さん）



ホストファミリー対面式（王くん）



ホストファミリー対面式 (呉くん)



ホームステイ (奚くん)

ホームステイ (王くん)



ホームステイ (竺さん)

ホームステイ (王くん、奚くん)



ホームステイ (郭くん)



ホームステイ (趙さん)



ホームステイ (戴さん)



ホームステイ (林くん)



ホームステイ (李さん)



ホームステイ (李さん)



ホームステイ (王さん)



ホストファミリーとお別れ



のとじま水族館・被災状況の説明を受ける団員たち



のとじま水族館



七尾市での夕食



巖門遊覧



千里浜（昼食）



千里浜



白山手取川ジオパーク



白山手取川ジオパーク（獅子吼高原）



白山手取川ジオパーク（白峰の街並み）



白山手取川ジオパーク（白山ろく民俗資料館）



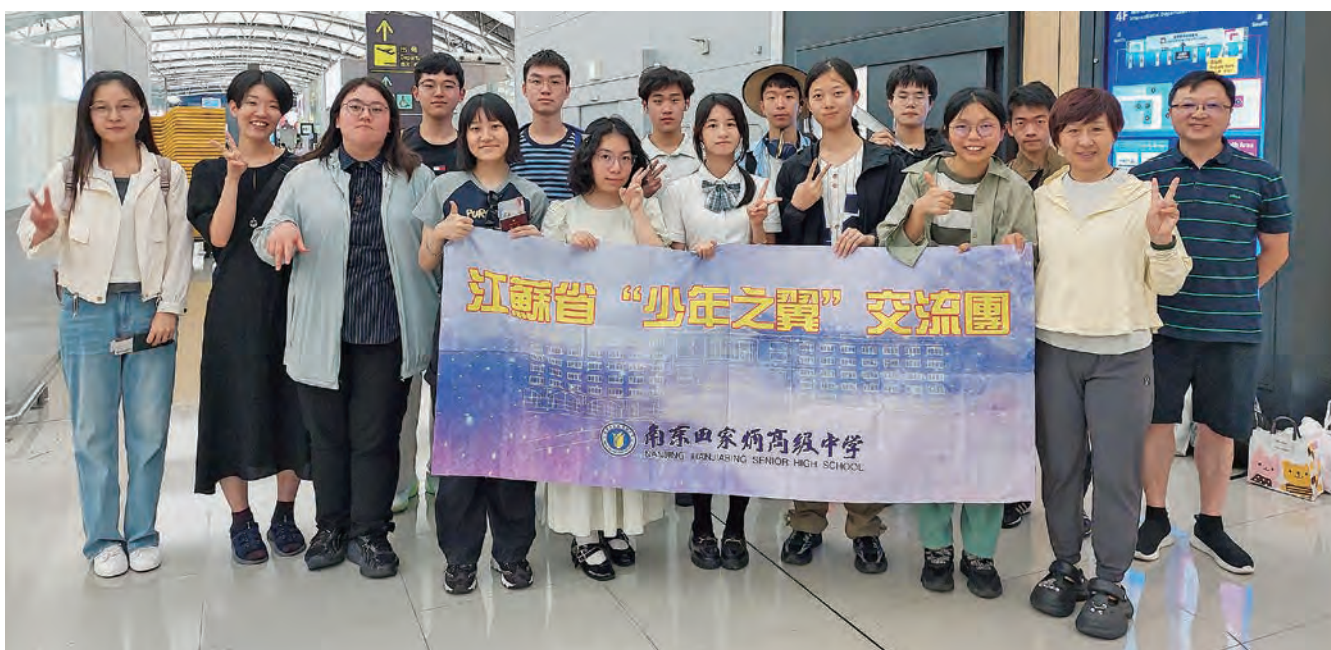
山中漆器工房見学



山中漆器漆絵体験



帰国の途へ



帰国

# 訪問を終えて

南京田家炳高級中学1年 王 耀民

## 一、活動概要

2025年8月21日から26日までの6日間、私は江蘇省「少年の翼」交流訪問団の一員として、日本の石川県を訪問し、友好交流活動に参加しました。本活動は、現地訪問、文化体験、ホームステイ等を通じて、中日青少年の相互理解と友情を深め、日本の伝統文化と現代社会に対する認識を深めることを目的としています。

訪問団は金沢市、加賀市、能登島などを訪れ、石川県立図書館、辰巳丘高等学校、兼六園、金沢城、21世紀美術館、のとじま水族館など、文化的、教育的意義のある施設を見学しました。また、和菓子作りや漆器工芸などの伝統工芸も体験し、充実した日程の中で石川県の文化魅力を最大限に感じ取ることができました。

## 二、主な活動内容と具体的事例

### 1. 文化交流と訪問

8月22日の午前、訪問団は石川県庁で知事を表敬訪問しました。知事は中国の生徒たちを温かく迎え、中日青少年の交流強化を励ます挨拶をされました。午後には石川県立金沢辰巳丘高等学校を訪問し、現地の生徒たちと深く交流しました。交流の中で、中日の生徒たちは言語が通じなくても、漢字の筆談や身振り手振りなどで楽しくコミュニケーションを取ることができました。特に印象的だったのは、日本の生徒が不慣れな中国語で自校の文化を紹介してくれ、私も覚えたての日本語で応えたことです。現場の雰囲気は熱気に満ち、和やかでした。

### 2. ホームステイ体験

今回の訪問の最大のハイライトは、ホームステイプログラムでした。8月22日夜、「海の食堂 BAYARCE」で行われた対面会で、初めてホストファミリーの皆さんとお会いしました。私のホストファミリーは母親、祖母、2人の男子という家族構成で、温かさと寛容さに満ちた家庭でした。

ホームステイ期間中、家族は私のために多彩な体験活動を準備してくれました。翌日、金沢市の有名観光スポットに連れて行ってくれました。兼六園では、その設



計理念が蘇州の庭園と相通じるものがあり、東洋の庭園芸術の真髄を体現していることに気づきました。東茶屋

街では、本格的な抹茶アイスクリームを味わい、伝統的な茶屋文化の魅力を体験しました。さらに驚いたのは、金沢城見学中に同じ団体の奚さんとそのホストファミリーに偶然出会い、2組の家族が一緒に観光を続けることになったことです。この自発的な交流により、当日の活動は一層豊かなものになりました。

夕暮れ時、地元のレストランでお好み焼き作りを体験しました。ホストファミリーのお母さんは、ひっくり返す方法やトッピングの追加の仕方を丁寧に教えてくれました。最終的な見た目はあまり良くなかったですが、その過程は笑い声と笑顔に満ちたものでした。その夜最も忘れられないのは、庭で「線香花火」をしたことです。きらめく光は夜空を照らすだけでなく、私たち一人一人の笑顔も照らし出しました。



ホストファミリーは特に、私の趣味に関連した活動も手配してくれました。私がアニメ『ラブライブ！蓮の空』（金沢市はこのアニメのロケ地）が好きだと知り、地元のアニメ聖地に連れて行ってくれ、石川県のマスコットキャラクター「ひゃくまんさん」を紹介してくれました。最も感動したのは、別れ際に、『BanG Dream!』の漫画、小説、そして山中漆器の箸2膳を含む、心のこもった贈り物を準備してくれたことです。これらの贈り物は、私の個人的な趣味嗜好を反映しているだけでなく、ホストファミリーの細やかな気遣いを示していました。



### 3. 文化体験と工芸学習

「越山甘清堂」では、和菓子作りを体験しました。職人さんが伝統的な道具を使って菓子の形を作る方法や、色と味の調合方法を丁寧に教えてくれました。私たちの作品は職人さんのものほど精巧ではありませんでしたが、この過程を通して、日本の匠の精神の核心——細部へのこだわりと伝統への尊重——を深く実感しま



した。

加賀市の「工房静寛」では、山中漆器の工芸を学びました。漆器職人が伝統的な制作技法を実演し、漆器に簡単な模様を描く練習を指導してくれました。この過程には多大な忍耐と細心の注意が必要で、些細なミスが最終的な仕上がりに影響を及ぼす可能性があります。この体験を通して、漆器制作の工程を理解しただけでなく、現代社会における伝統工芸の継承と革新を感じ取ることができました。



#### 4. 集団活動と自然探索

8月24日、ホームステイを終え、私たちはのどじま水族館へ向かいました。途中の青い海と空、緑の島々は心を爽快にしてくれました。特に特筆すべきは、能登地域が2024年1月1日に大地震に見舞われ、水族館も深刻な被害を受けたことです。水族館の入口にある「完全復活〜ただいま」の標語は、地元の人々の強靭さとふるさとと再建への決意を強く感じさせました。



水族館のイルカパフォーマンスでは、トレーナーとイルカとの息の合った連携に衝撃を受けました。一つ一つの動作、一飛び一飛びが深い信頼関係の上に成り立っており、このような人と動物の間の調和的な共存には心を打たれました。



最終日の夜、ホテルの近くで花火大会に偶然出会いました。夜空に咲く鮮やかな花火は、この交流活動に完璧な終止符を打ったかのようなものでした。一つの花火が、この旅で出会った温かい瞬間のようで、短い間ではありましたが、記憶の深くに永遠に残るものとなりました。



#### 三、得られたものと感想

今回の交流訪問を通じて、私は予想をはるかに超える成長と啓発を得ました。最大の収穫は、「友好に国境はない」という深い意味を本当に理解したことです。言語や文化の違いはありましたが、誠実な笑顔と心のこもった交流に

よって、ホストファミリーと深い友情を築くことができました。彼らは私の日常生活の世話をしてくれてだけでなく、私の趣味や関心を理解し、心温まる贈り物を準備してくれました。この細部まで行き届いた気配りに心から感動しました。

文化体験では、日本の伝統文化への重視と革新を深く感じました。漆器職人の「革新の中で継承し、継承の中で革新する」という言葉は、伝統文化保護の真髄について深く考えさせられました。同時に、兼六園と蘇州庭園の似通った点は、中日文化融合の長い歴史を物語っていることも実感しました。

この経験は、私の自立心と適応能力も大いに養ってくれました。見知らぬ環境の中で、どのようにして素早く新しい生活に適応し、突然の問題を解決するかを学びました。

最も重要なのは、この交流が私の心に友情の種を蒔いたことです。別れの際の名残惜しさは、国境を越えた友情をより一層大切に思う気持ちにさせてくれました。これらの貴重な経験は、私の成長過程における永遠の原動力となり、中日友好交流の架け橋となるよう励まし続けてくれるでしょう。

#### 四、謝辞

最後に、石川県庁、各受け入れ関係機関、そしてすべてのホストファミリーの皆様のご多大なご支援と行き届いたご手配に心より感謝申し上げます。また、江蘇省教育庁、学校のリーダー、先生方への入念なご準備と全程にわたるサポートにも感謝いたします。今後とも中日青少年の友好交流が推進され、友情の樹が永遠に青々と茂ることを期待しております。

#### 石川県で感じた文化と温かい交流

南京田家炳高級中学1年 李欣航

今回、私は石川県でホームステイを体験させていただきました。短い期間ではありましたが、日本の深い文化と地元の方々の温かさに触れ、たくさんの発見と感動であふれる、忘れられない時間となりました。ここで感じた驚きと喜びを、二つの部分に分けてお伝えしたいと思います。

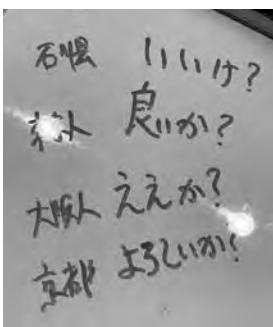
#### 日本の深い文化との出会い

まず訪れたのは、金沢が生んだ文豪、徳田秋声記念館でした。私は小学生の頃から日本文学が大好きで、特に坂口安吾先生の作品に強く惹かれてきました。ですから、日本の文学者の記念館を訪れることができると聞いた時から、胸が高鳴っていました。記念館では、秋声先生の直筆の原稿や愛用の数々を見学し、文学が生まれる現場の空気を感

じ取ることができたような気がしました。そして、館内で出題されたクイズに挑戦したのですが、全部正解することができました！係員の方から記念の絵葉書をいただいた時は、本当に飛び上がるほど嬉しくて、一生の宝物ができたと思いました。自分の好きなことが形となって返ってきた瞬間で、この地を訪れたことの意義を強く感じました。



この旅で最も素敵だったのは、ホストファミリーとの温かい交流です。初対面の時は少し緊張しましたが、みなさんがすぐに優しく迎え入れてくださり、あっという間に打ち解けることができました。会話の中では、お互いの地域の方言について話が盛り上がりしました。私が中国の故郷の方言を披露すると、家族の皆さんは大変興味を持ってくださり、今度は自分の方言を教えてくださいました。同じ日本語でも地域によって全然違う響きがあること、そして方言がその土地の愛や温かさを伝えるツールであることを楽しく学びました。



食の交流も忘れられません。家族の方が連れて行ってくださった地元の有名な「8番ラーメン」は、濃厚なスープとちぢれ麺が絶妙で、今でも思い出せるほどの美味しさでした！食卓では、ラーメンやお寿司といった日本の美食と、私が教えた中国の家庭料理の話で大盛り上がりしました。違う国の出身でも、美味しいものを愛する気持ちや、食を通じて家族や友人と団らんする時間の大切さは共通しているのだと、心から感じました。ホストファミリーとの何気ない会話や笑い声の一つ一つが、国境を越えた絆を感じさせてくれる、かけがえのない瞬間でした。

石川県でのホームステイは、私にとって単なる旅行ではなく、日本文化の深い底力と、人と人との心の温かさを学

んだ貴重な経験でした。金沢の奥深さ、白山のふもとに脈々と受け継がれる歴史、そして何よりもホストファミリーの笑顔と優しさ。すべてが私の心に強く響き、大きな感動と驚きを与えてくれました。この地の豊かな文化と、出会った全ての方々への感謝の気持ちを決して忘れず、これからも交流を深めていきたいです。



本当にありがとうございました。

## 石川県交流の心に残る思い

南京田家柄高級中学1年 戴子洵

夏休み期間中、学校主催の石川県訪問プログラムに参加できたことは、誠に光栄なことであり、この他に類を見ない貴重な体験は、決して記憶から褪せることはなく、一生涯私の心に刻み続けられるに違いありません。

県庁を訪問した時には、厳かで壮麗なロビーの雰囲気やや緊張いたしましたものの、知事の温雅で気さくなお人柄に触れ、すぐに打ち解けることができました。とりわけ印象深かったのは、将来日本語教師を志したいと述べました私に、知事が「もう既にその資格は十分ですよ」と微笑みながらおっしゃってくださったことです。この言葉は、今この瞬間も胸の奥深くに響いております。その感激と喜びは言葉に尽くしがたいものです。このお言葉を肝に銘じ、夢に向かって一層ひたむきに努力を重ねてまいります。

ホームステイ先での日々も、本旅程における珠玉の思い出となりました。気立ての優れたさやちゃん、天真爛漫なまおちゃん、そして心遣いの細やかなお母様との何気ない会話や行楽は、まさに至福の一時でした。金沢の東茶屋街では抹茶フラペチーノとイチゴミルクケーキを味わい、当地独特の金箔工芸を鑑賞いたしました。職人技の精巧さには、ただただ感嘆の息を漏らすばかりでした。兼六園の豊かな緑や金沢21世紀美術館の独特な芸術空気もまた、心に深く染み入るものがございました。道中、姉妹たちと交わした好きなアイドルや見たことのあるアニメ、高校の文化祭についての会話は尽きることがなく、笑い声の絶えることはありませんでした。最も心に残りましたのは、皆でたこ焼きを制作したときです。小麦粉と卵を均一に混ぜ、専用の鉄板に流し込み、各自でタコやソーセージを加え、細

かく刻んだネギや小エビを散らし、竹串で丹念に丸めあげていきました。その出来栄えはというと、今思い出してもなお、たまらない食欲をそそられるほどでした。しかし、何よりも大切なのは、皆と共に創作する過程そのものにこそ、至上の喜びが潜んでいたのです。

3日間のホームステイは瞬く間に過ぎ去り、別れの際の寂寥感は今もなお癒えぬものがごさいます。しかし、旅行団で訪れた他の場所も、それぞれが強い印象を残しております。のどじま水族館では愛嬌たっぷりのエイとゆったりとした海亀、綺麗なクラゲなど多種多様な海洋生物を目にし、イルカショーには目を見張るものがあり、遠くに広がる紺碧の海はしばし思考を忘れさせました。金沢・巖門でのクルージングでは、頬を撫でる潮風がほのかな塩気を運び、心身を爽快ならしめました。獅子吼高原と白山の雄大な景観は、まさに自然の威容を眼前にし、心を洗われる思いでした。最後に、漆器の制作工程を見学し、自ら絵付を体験させていただきましたが、職人たちの一絲乱さぬ姿勢に感銘を受け、私も微力ながら最大の努力を払い作品を完成させ、達成感に浸ることができました。

旅の細部にも、数々の温かなエピソードが散りばめられておりました。石川県の寿司やすき焼きをはじめとする多様な食は強く印象に残り、特に「ブルーハワイ」と名付けられた氷菓の清涼感あるブルーは、この忘れ難き美しい夏の象徴とも言えるでしょう。夜、花火の輝きの下で友人と交わした「いずれ必ず本場の花火大会を共に観よう」という約束は、人生の儚さと華やかさを同時に感じさせ、さながら花火の如く鮮やかに心に焼き付きました。

7日間という短い石川県の旅ではありましたが、その密度の濃さと深さは一生忘れられない思い出になりました。これらの唯一無二の楽しく美しい思い出は、もはや私の記憶の中で失うことができないう一章となりました。これらを心の最深部に大切に収め、この温もりと力を糧に、より輝かしい未来へと歩を進めてまいりたいと思います。

南京田家炳高級中学1年 呉 凌越

## 1. 活動の背景とはじめに

今回の「少年の翼」国際交流活動は、中日双方の関係機関の大きな支持を得ました。日本側の受け入れ機関は綿密なスケジュールで各行程の順調な進行を確保しました。代表団全員が渡航前に必要なオリエンテーションを受け、日本の礼儀文化及び外事規律などの方面を学習しました。この活動に関わってくださったすべての方々のご苦労があつて

今回交流の機会を頂けたことに感謝しています。

## 2. 詳しい活動内容

交流活動の内容は多岐にわたっており、主に以下のようなものがあります。

1. 過去の少年の翼参加学生との交流座談会
2. 石川県立図書館見学
3. 石川県知事表敬訪問
4. ホームステイプログラム
5. 能登島ツアー
6. 和菓子と漆器作り体験

各活動はスケジュールがぎっしり詰まっており、代表団のメンバーは全方位的、多角的に日本文化を体験することができ、多くの収穫を得ました。

## 3. 主な活動の詳しい内容

### (1) 石川県知事表敬訪問

代表団は8月22日午前11時に石川県庁に到着し、県知事と正式にお会いしました。知事はまず代表団に歓迎の意を表した後、石川県の概況をおよそ5分間紹介しました。地理、人口構造、産業の特色及び近年国際交流の方面で展開している主な仕事です。知事は、石川県と中国が友好関係を樹立して以来、経済貿易、文化、教育など多くの分野で実質的な交流協力を展開してきたことを強調しました。

交流セッションでは、代表団長が今回の交流活動を説明し、中日友好交流に対する期待を表するとともに日本側の周到な手配に感謝の意を表しました。知事が親切で穏やかな態度で接して下さったのが印象的で、生活の中の食べ物や趣味、そして私たちの将来のビジョンを尋ねたりしてくれ、私たちの政府役人に対する固定観念を打ち破りました。面会は約40分間、和やかな雰囲気で行われました。会議のあと、記念品を贈り合ったり、記念撮影をしたりしました。

### (2) ホームステイプログラム

8月22日から24日まで、代表団のメンバーはそれぞれ地元家庭に宿泊し、ホームステイを体験しました。私は幸運にも6人家族の家庭に入り、3日間の共同生活を通して、日本の家庭の日常の過ごし方を深く体験し、忘れられないホームステイの時間を過ごしました。この数日間の共同生活で、私は実際の日本の家庭生活を体験しただけでなく、中日文化間の違いをより深く感じました。

#### (1) 居住環境と生活習慣

私のホストファミリーは、典型的な一軒家に住んでいました。レイアウトは合理的で、清潔で快適です。最も印象的だったのは日本の家庭では室内衛生を重視していることです。部屋に入る時は必ず靴を履き替えるという習慣が徹底されているほか、違う部屋に入るときはその部屋専用のスリッパに履き替えることなどです。このような清潔を重視することは、生活のいたるところに現れ

ています。

家族構成は両親と4人の子供で、人数は多いものの、生活は整然としていました。毎朝家族で分担して朝食を作り、皿洗いをし、一緒にテレビのニュースを見ます。この調和のとれた生活リズムと家族の絆に日本の家庭ならではの温かさを感じました。

#### (2) 文化活動への参加

ホストファミリーは、地元の有名観光地を熱心に、たくさん案内してくれました。兼六園や金沢城公園では、日本庭園の精巧な設計に感服しました。どの景観にも入念な構想が施されており、「以小見大」の哲学思想を体現していました。金沢21世紀美術館にはさらに驚かされました。ユニークな建築設計と斬新な展示方法で、日本の現代アートの創造性を示していました。

特筆すべきは、KOMATSUのショベルカーの見学です。これまでに聞いたこともないユニークな企業文化は、利潤だけでなく文化的価値も背景に持つ日本企業について理解を深め、このような企業発展モデルには深く考えさせられました。

#### (3) 文化の違いと気づき

私は共同生活の中で多くの文化の違いを観察しました。まず、人と人との付き合い方です。日本人は社交の中で特に礼儀と相互尊重を重視します。一番印象に残っているのは道路交通状況についてで、数日間、私はほとんどクラクションを聞くことがなく、運転手たちは息のあったコミュニケーションで交通の問題を解決しており、この文明的な運転には感心しました。

次に家族関係の強さです。家族にはそれぞれの空間と時間がありますが、何かと機会を見つけては集まって話をするのです。家庭には結束力があって暖かいです。

最後は、生活への積極的な姿勢です。忙しい日々を送っていても、家族は常に前向きな気持ちを持ち、お互いに気を配っています。私はこのような積極的な生活態度に感化され、生活に対して新しい認識を持たせました。

#### (4) 収穫と反省

ホームステイはとても得ることが多かったです。日本語のコミュニケーション能力が向上しただけでなく、さらに重要なことは日本の文化や生活スタイルを深く理解することができたことです。ホストファミリーの行き届いた配慮と誠実な交流は、国境を越えた温かさを感じさせてくれました。

この体験を通して、文化交流の大切さを知りました。自らの体験と直接のコミュニケーションだけがステレオタイプな印象を打ち破り、真に異なる文化を理解することができます。この理解は、国際的な視野と異文化コミュニケーション能力を養うのに役立ち、私たち若い世代にとって極めて重要です。

最後に、ホストファミリーの温かいもてなしと、このような貴重な機会を提供してくれた主催者に心から感謝します。この経験は私の人生の貴重な思い出となることでしょう。

#### (3) その他の活動体験

そのほか、能登島ツアーや伝統工芸も体験しました。能登島の自然と生態系には感心させられました。和菓子作りや漆器工芸の体験では、日本の伝統工芸の素晴らしさや文化を肌で感じることができました。

#### 4. まとめ

今回の活動は中日の青少年に良い交流の場を提供し、多彩な活動を通じて、参加者が様々な角度から日本の社会文化を理解することを可能にしました。スタッフの努力のもと、イベントは綿密に組織され、順調に実施されました。

最後に、ホストファミリーの温かいもてなし、主催者とすべてのスタッフの苦勞に心から感謝します。この貴重な経験は人生の貴重な財産となり、これからも頑張ろうという励みになります。

南京田家炳高級中学1年 郭爾樂

まず、この旅行は私の人生におけるもっとも素敵な旅の一つだと、心から思います。これは短い期間でありましたが、石川県の美しい景色と独特な文化に接することができたからだけではありません。最も忘れたいのは、実はこの人付き合いの温かさです。他の国の地に足を踏み入れた時、長い間慣れない思いをするだろうと思っていました。食事の味、人々との交流の仕方、言葉の壁、生活習慣など、どれも慣れない点が山ほどあると予想していたのです。しかし実際には、すぐ石川の人々生活に溶け込めたように感じました。素麺やうどんを食べることも、温泉に入ることも、日本語を使って人々と話すことも、すぐに慣れました。私は歴史が非常に好きです。今回の旅行は、自分の目で見て、体で感じる貴重な機会となり、日本文化に対する理解が一層深まるとともに、多くの新しい思考も生まれました。能登国の地図を博物館で見つめたとき、修復中の金沢城を見上げたとき、地元の民族衣装を着て花火を見上げたとき一どの瞬間もかつて本の中にだけ存在していた文字たちが、自分自身の周りにいるような実感がしました。ここの図書館やショッピングモール、果てしなく広がる大海原、そしてそびえたつ丘々は、すべて私に数え切れないほどの忘れたい思い出を残してくれました。特に、いろいろとお世話になった野口さん一家は、私に少しも隔たりを感じさせませんでした。それどころか、全力で私を受け入れて、家庭の一員のように迎え入れてくれました。ここまで書いて、中日国民の友誼は永遠に続くものだというのが決し

て空疎なスローガンではないことを心から実感しました。

南京田家炳高級中学1年 林思翰

今回の「少年の翼」活動では非常に多くの収穫がありました。続いて、主に自身の見聞を中心とし、補足資料を参考に、経済、文化、生活の三つの方面から報告を行います。

経済：金沢市、能美市、白山市での見聞によれば、石川県の都市は過度に拡大しておらず、獅子吼高原の高所から俯瞰した結果、町々は概して大規模ではなく、比較的まばらに分布していることがわかりました。しかし、ホームステイ先での交流および過去2日間の金沢市での経験から、石川県の住民の生活水準は相当に高いものであることが窺えました。石川県の既存の経済産業構造に関する報告と合わせて考察すると、石川県では工業が主体ではなく、『石川県成長戦略』によれば農業が重視され、第三次産業が発達し、高い評判を得ていることがわかります。この地では、特に兼六園において、他国からの観光客を頻繁に見かけることが、その有力な証左です。以上を総合すると、石川県の地域経済は比較的発達しているものの、観光業などの第三次産業が特に発達しているため、住民の生活ストレスは比較的小さく、長期的な発展可能性を有し、比較的スローライフな地域であると言えます。

文化：石川県はその地域特有の文化産業を高く重視しています。今回の活動では、和菓子作りと漆器製作の二つの工芸体験をさせていただき、これは伝統工芸の継承と発揚に対する石川県の熱意と決意を十分に物語るものでした。また、ホームステイ先のご家族のご案内で、金箔に関する体験館を見学しました。地元の特色ある文化に対して一般の住民がこれほどまでに理解と関心を示していることは、実際、私たちの南京市がまだ達成できておらず、学ぶべき点であると感じました。上述の工芸体験では、いずれも関連する専門家による実演展示がありました。このような実演は、見学者のその工芸に対する興味、さらには情熱を刺激するのに非常に有効であると感じます。例えば、金箔の極めて繊細な制作工程は深い印象を残し、金箔が手の上で雪のように溶けていく様は今も記憶に新しいです。辰巳丘高校での「梅結び」制作（水引）では、不器用なため「梅結び」と「死ぬまで格闘した」経験がまざまざとよみがえります。PPTや動画による演示と比較して、実演による演示効果はより優れていると言えるでしょう。

生活：非常に嬉しかったのは、日本人が国際的に評判通りの礼儀正しさと文明的なイメージを見せてくれたことで

す。空港に到着し入国審査を終えた時、私たちを出迎えてくれた石川県の職員の方は非常に高い素養を示され、挨拶の際に軽く会釈をしてくださいました。私は相当な尊重を示されており、自国で通常受ける以上の尊重を感じたと思いました。その後も何度となく彼女の世話になり、ここに感謝と衷心からの挨拶を申し上げます。2点目は、飲食店のスタッフのサービス態度が非常に満足のいくものであったことです。私のような三流の日本語話者と忍耐強くコミュニケーションを取ろうとする職業精神にも深く感銘を受け、本当にご迷惑をおかけしました。3点目、そして最も主要な点は、ホームステイ先での生活です。ホームステイ先のご家族は本当に親切にしてくださり、彼らの生活は現代家族に対する私の認識に完全に合致するものでした。家族間の平等な地位と相互尊重は、故郷に帰ったような気分させてくれました。彼らの日常生活は私のものより豊かで、花火、海水浴、折り紙手工芸、そして各種の大規模イベント（花火大会など）のいずれもが充実感を与えてくれるものでした。私の見るところ、多くの若者がネットやオンラインゲームに没頭する大きな理由の一つは、現実生活における空虚さまたは抑圧であるため、彼らのスマートフォン使用率が私より低い理由もここにあると言えます。この見解を裏付ける事実として、ホームステイ先での3日間、私のスマートフォンの使用時間は合計して1時間半を超えなかったはずで、彼らは高校時代、私たちより低い学業圧力と豊富なクラブ活動により、青春を謳歌する機会を得ています。日本において若年層を対象とした数多くのスポーツアニメが生まれる背景には、この無限の可能性を示す高校生活と切っても切れない関係があります。彼らとの交流の中で、常に行われる挨拶の一つ一つが、彼らの友好さと人に対する誠実さを表していました。兼六園では、ホストマザーが進んでヨーロッパ人観光客に道を譲る姿が印象的で、これは劣等感からではなく、自国の優れた文化を示す自信と余裕から来るものでした。ホストファミリーが大学で習得した中国語を使って敢えて私とコミュニケーションを取ろうとしたことも、異国からの客人を尊重する姿勢の現れでした。つまり、相手の国の言語でコミュニケーションを取ることは、相手に対する尊重を表すことになると私は考えます。実質合計2日間のホームステイ生活では、他の参加者のように主要観光地を訪れることはなく、代わりに、ホストファミリーがよく行く、または家の近所の場所を見て回りました。このことの意義は、前者よりも大きいと私は考えます。「少年の翼」活動は、単なる観光ではなく異なる生活を体験することであり、日本の家庭の日常生活を直に体験できたことを大変光栄かつ嬉しく思います。ここに、ホストファミリーの皆様へ心からの感謝の意を表します。

以上をもちまして、報告を終わります。しかしながら、本活動がもたらした、私の行動や視野に対する変化は、容易に言葉で伝えられるものではありません。

閉鎖は遅れと偏見を招き、開放は未来と進歩を迎え入れます。

### 南京田家炳高級中学2年 趙 卿辰

8月、暑い季節でした。

夏休みの終わりに、学校、政府などの各方面の調整のおかげで、南京田家炳高校の十数人の学友は日本の石川県を訪問する機会を得ました。

バスは夜にホテルに到着し、翌朝、食事を済ませてから空港に向かいます。何度も何度も検査を受け、赤と白とグレーの機体の窓から、上海ビーチの陸地が黄色く変色していくのが見えます。座席が上下に揺れるのを感じながら、「いよいよ出国するんだ」という実感が湧きました。緊張と興奮の波にのまれていきます。待ちに待った数日間であっという間に過ぎ、最終日の午後9時、大阪発の夜行便で帰国するとき、私たちの中にしずかに芽生えた名残惜しさと感動は、出発時に感じたものとほぼ同じ重さでした。

「石川県って、どんなところなんですか？」

出発前の交流会で、名古屋市から来た日本の高校生にこんな質問をした記憶があります。

そのときは、彼女たちも行ったことがなかったので、残念ながら私の疑問には答えられませんでした。

それが今日になって、今の自分が、実際に旅をして、体験して、昔の自分が解けなかった問題を解けるようになったのだと思うと、言葉では言いようがありません。

だいぶ時間が経っているので、具体的な時点までは思い出せませんが、次の三つの点から、今回の旅行の感想を簡単に述べたいと思います。

#### 一、自然と物産

石川県は主に能登半島と内陸部の一部を含み、三方を海に囲まれ、山が多く、海洋性気候が顕著な地方です。今回訪れた金沢近郊の千里浜や獅子吼高原は記憶に新しい風景です。

七尾方面に向かう高速道路からは、早くも青い水平線の壁が昔から変わらずにそびえていて、海特有の潮の香りがします。生い茂った植生を通ると、1本の狭くて整った砂浜が突然目に入ってきて、白くて細かい波しぶきははじけた真珠と玉帛（絹織物）のようで、砂浜にずらりと並んですぐに消えてしまいました。環境対策が徹底されているにもかかわらず、時折、一部のプラスチックゴミの残骸が海

岸に残っていて、墓石のように砂の中に半分埋もれています。しかし、それはある意味悪いことではないようで、小さな貝やヤドカリが家を構えて、小さな社会のように散らばっているのです。貝殻をひろっているときに、ふと気がついたのですが、あの米粒のような白い貝類は、波打ち際に打ちあげられると、すばやく立ちあがって、ぶるぶるふるえながら、また砂の中へもぐりこんでいくのです。万物は実に不思議なものです。

獅子吼高原に至っては、当日ロープウェイで登った時はあいにく曇り空でした。山々は緑が深く、遠くから見ると青みがかっていて、それほど高くはなく、谷の両側に布団のように広がっています。そして谷底の沖積平野には、金沢市全体が眼下に横たわっています。本来見えるはずの日本海は見えませんでした。山の上の、ひんやりと湿った、ぼんやりとした空の光は、8月の暑さには最高の宝物でした。もちろん、海を見ることができなかったということもありますが、その悔しさを晴らすために、今度もう一度来てみるつもりです。

物産では、石川県の縁起物である達磨「ひやくまんさん」のほかに、近江町市場の海鮮、アイスクリームの上に貼られた金箔、能登半島名物の桜貝など、名物の中でもユニークな一品となっています。ここに書いたことは、金沢の本当の意味での特産物ばかりではなく、私が個人的にここ数日に出てきた金沢のものの中で、もっとも印象に残っているものにすぎない可能性が高いのです。それでも覚えているということは、その経験が私にとってより貴重なものになっているからです。

#### 二、市井の人々

今回石川に行って、私たちはたくさん面白い日本人に出会いました。その中で印象的だったのは、馳浩知事、辰巳丘高校の合唱部の先生と生徒、そしてホストファミリーの皆さんでした。

2日目の旅の最初に、石川県の馳浩知事にお会いしました。知事室に入ると、長机のデスクにいたのは彼で、明らかに身体能力は優れているようで、端正で威厳がありながらも個性を失わない、目鼻立ちの明るい男性で、レスリングもやっていたそうです。生徒代表の私は、校長先生の挨拶のあとにスピーチをする予定だったのですが、馳知事には何か考えがあったのか、次の生徒に自己紹介をさせたので、ペースが狂ってしまいました。そして、私が自己紹介をすると、彼はにこやかに私を見て、スピーチ原稿を読まないように言ったのです。多少の調整を加え、趣味や金沢での見聞などを簡単に述べて、難なく乗り切ることができました。現場では、馳知事の段取りに驚きましたが、いまは感謝しています。そのおかげで、私は自分のスピーキングを試す機会を持つことができましたし、学生代表ではな

く、単純に自分の視点で自分の実感を語ることができました。私が魚料理が好きだと話すと、この優しい知事さんは「私も好きです」と笑顔で応えてくれたり、興味津々で細かいことを聞いてくれたりして、「本当に対等に話しているんだな」と親近感を覚えました。お別れの挨拶をしてから、緊張した午前中でしたが無事に終わりました。

その後、昼食の時間に訪れた金沢辰巳丘高校では、芸術専攻の生徒たちと合唱部の部員たちが応対してくれました。昼食後の挨拶が終わると、正式な交流が始まりました。彼らのパフォーマンスと合唱曲は本当に完璧でしたし、能の披露は日本文化の静かで荘厳な美しさを完璧に表現していました。男子2人は後ろで一高一低と歌を合わせ、女子2人の正確で力強い扇子と儀式的なステップを組み合わせて、全員が静かに聞き入りました。その後の合唱の中で、10人ほどの合唱部員は先生の優雅な指揮の下で声を出して歌い、高い低音部は調和を合わせて、音色は穏やかですがクライマックスで感情の高ぶりを失わずに、終わった後の少しの時間、誰もすぐには拍手しません——彼らは全員を精緻な公演の中に没入させたのです。最初の二つのプログラムの後は、私たちのメンバーがダンスと歌と詠春拳を披露しました。私が担当した歌のパートでは、彼らのような境地には達していないと思いましたが、指揮を担当してくれた先生は美しい音色だと褒めてくれました。これにはとても感動しました。

午後は海沿いのレストランで、ホストファミリーに会いました。東京に単身赴任中で五目並べでは私に完勝した父、料理が上手で面倒見のいい母、ポルトガル語が少し話せて国際的な視野を持っていてとても真面目なご本人、子供のように元気いっぱいの親切なお姉さん。ホストファミリーは行きたい場所を自由に決めさせてくれるだけでなく、きちんと交流できるかどうか心配してくれたり、ホストマザーは中国語の勉強本を2、3冊借りてきて、日本語が無理なら彼らにとっては難しいであろう中国語で話してみようと言ってくれたり、本当に細やかな心配りをしてくれました。それから2日半の間、私は彼らの友好的な交流の雰囲気の中で、兼六園と金沢城の古典の美しさ、人でごった返す近江町市場、海鮮飯のおいしさ、そして午後には『鬼滅の刃』がスクリーンに映し出されるという壮大な映像体験を共にしました。また、私のお願いでビーンズにも連れて行ってもらいました。金沢最大の書店で、上下3階建ての巨大店舗のような建物です。そこで好きな本の日本語版を買うことができたので、今頑張って読んでいます。

ホームステイプログラムで、日本語のリスニングとスピーキングの差がほとんどなくなり、日本人の生活や性格をより深く理解することができました。それに対して、ホストファミリーの中国への理解も、私の粘り強い説明でますます深まっていったと思います。一つ、「なんと日本人

はハスの実を食べないのか」と驚いたエピソードがあります。彼らは乾燥させたハスの花を直接使うことが多く、ハスの実は食べないのです。私のおすすめで、家族でいくつか試してみましたが、味も悪くなく、熱と暑さを和らげてくれます。これは私がここ数日で解消した最も興味深い文化の違いでしょうか？今思い出しても笑ってしまいます。

まとめ：

今回の旅行の中で、私はホストファミリーとの友情と、素晴らしい瞬間、さらに充実した心を得ました。

出発前は、両国の距離があまりにも遠く、ネット上の情報も曖昧模糊で、今回の旅の長所も短所もすべてを受け入れる勇気さえありませんでした。

そして今、私は十分に理解し、自信をもって自分に答えることができます：「石川県は風景的にも人文的にも申し分ないところです」

近い将来、私が本当に長い間日本に足を踏み入れ、自分にふさわしい道を追求する時、この旅行で得た収穫を持って、さらに広い視野で、相互理解を強化して、「少年の翼」の理念と恩恵をもっと広げていきたいです。

## 石川県の最高の思い出

南京田家炳高級中学2年 李雪瑞

信じられないことに、私たちが石川県を訪問してから、もう1ヶ月も経ちました。あの時の笑い声と楽しげな様子は、まるで昨日のことのようです。不安と興奮が入り混じった気持ちで飛行機に乗ったあの時の私は、その後の1週間が17年間で最高の旅になるとは思いもよらなかったでしょう。

特に忘れられないのは、ホームステイ家族とのわずか1日半の思い出です。彼らとの出会いは、潮風と波の音が混ざり合ったレストランと、空に広がる夕焼けから始まりました。

その時、美輪ちゃんに席まで案内され、私は緊張してスーツの上着を握りしめ、どう話せばいいか考えあぐねていました。「ゆきちゃん、敬語を使わなくていいよ。みんな家族だから」と、ホームステイ先のお母さんが、私の言葉遣いの悩みを聞いた後、笑いながらそう言ってくれました。その瞬間、温かい気持ちがかみ上げてきました。自己紹介の後、少しずつ会話が弾むうちに、それまでの緊張は潮風とともに消えていきました。

1日過ごした後、彼らは私の好みに合わせて、寿司屋に連れて行ってくれました。店内の温かい灯り、他の日本人客のにぎやかな声、そばで笑うホストファミリーの声、どれもがとても心地よく感じられました。私たちは食べなが

ら、身近な話題から世界のことまで話し、彼らは「中国語を教えて!」とリクエストしてきました。スマホで動画を撮り始めると、家族たちは拙い発音で「好吃!(ハオチー!)」と言い、私たちは大笑いしました。食事の後、道で「ドン・キホーテに寄ってみたい?」という提案に、私は「いいね!ドン・キホーテ大好き!」と答え、すぐに主題歌を歌い出しました。すると1秒も経たないうちに、みんなもそれに続き、私たちは街中で大声で歌い、踊りながら笑い転げました。

この瞬間だけで十分に宝物なのに、翌日彼らが私にくれた贈り物は、私の涙をほとんど溢れさせるところでした。

昨日一緒に撮った写真が貼られ、家族一人一人の手書きの手紙が添えられた豪華な大きなカードが手渡された時、私は声を詰まらせて驚きました。たくさんの言葉が胸に詰まって、うまく表現できませんでした。私はこの光景を目に焼き付けようと思いました。ネット上では、「ある瞬間の価値は、それが思い出になるまでわからないことが多い」と言われますが、この時ばかりは、その瞬間の尊さをはっきりと感じ取りました。時の流れを止めたいと思いました。が、残酷な時間には敵いません。

どれほど素晴らしい時間でも、いつかは終わってしまいます。

しかし、それによってもたらされたものは、それだけで十分に素敵なものです。

今回の旅行には、新奇さも不安も爽快さも、新しい友人も、家族のような温かさ、そして愛もありました。

ホストファミリーとの思い出は、短くも盛大で、まるで花火のようでした。

これがご縁というものなののでしょうか?

別れ際、私たちは「また必ず会おうね!」と約束しました。

その日が来ることを、私は心から願っています。

#### 南京田家炳高級中学2年 竺子茵

今回は石川県で6日滞在し、ホームステイや県立図書館見学など、いろいろなご招待をいただきました。石川県の皆さん、誠にありがとうございました!時間は長くなかったですが、身をもって異文化に触れ、お祭りとか一戸建てに泊まるとかささまざまな“初めて”を体験し、日本人の友達もできて、本当に嬉しかったです!ここで、この大切な思い出と喜びを振り返りたいと思います。

##### ・日本の学生たちとの交流

私は中日クラスの学生ですから、以前学校の交流イベントで日本からの学生たちと交流したことがありますが、客

として日本の土地で、和室の中に座ってゲームをしたり話あったりするのとはやはり違いますよね。金沢市で、去年“少年の翼”に参加したことがある日本の学生たちとの交流会で、日本語の諺に関するゲームと古い街を歩いて指定のスポットを探すコンテストを行いました。そして、辰巳丘高校を見学し、生徒たちと一緒に弁当を食べて、日本伝統の“梅結び”(水引)を作りました。その後、芸術を学ぶ生徒たちは伝統の“能”を演じてくれました。それらにより、日本文化の夕日を浴びる閑静な山道を歩くような独特な魅力を実感しました。また、自分の国の文化を誇りにしている学生たちの姿と笑顔を見て、国籍によらず喜びが湧いて来て、感動させられました。

##### ・ホームステイ

今回の旅で最も鮮明な記憶を残したのはやはりホームステイの体験です。うちの都市部のマンションとは違う、ちょっと田舎みtainな地域で一戸建てに泊まって、日本人のファミリー3人と一緒に過ごした3日間は私にとってとても貴重な記憶です。有名な21世紀美術館も見学し、浴衣を着て町のお祭りにも行きました。でもそれらよりもっと大切なのはホストファミリーの皆さんがくれた家庭の温もりです。私は日本語を上手に操れないのに、ずっと励んでくれていました。それは私に莫大な勇気と自信を与え、頑張って話しているうち日本語能力も高まったと感じました。そして、居間に座って皆さんに国から持ってきたプレゼントの飴を紹介したこと、一緒にご飯を食べたこと、お祭りから帰ったあと庭で花火を上げたこと、寝る前に同い年の子とスマホの写真などを見ながら学校や友達のことを話し合い、笑ったりしたこと……今顧みれば温かい記憶があふれてきます。“ホームステイに通して中国と日本の日常生活の差異を実感しました”というより、あたかも自分が日本の高校生になったように、日本の生活に溶け込んで、普段と異なるもう一人の自分に出会いました。“日本へ留学に行ったら、朝はこのような部屋で目を覚まして、コンビニでこのようなパンを買って食べて、暇があればこのような図書館に行き、お茶を飲みながら本を読んだりするようになるかな”と思って、未来に憧れます。その憧れを形作ってくれたホストファミリーの皆さんに感謝の気持ちいっぱいです。

##### ・見学体験

この期間、色々な場所を見学させてもらいましたが、残念なことに、紙面の限りのため詳細を書くことができません。それで、見学中覚えた日本人の特質を中心に書きたいと思います。

まずは石川県立図書館とのとじま水族館です。この二つのところで感じたのは日本人の“自覚”です。図書館だけでなく、公の場で大声を出さないこと、行列が並んでいるときは割り込まないこと、人の忘れ物を見ても拾わないこと

など、他人に迷惑をかけないようにしている“自覚”を強く感じました。

次に、獅子吼高原と巖門で、美しい景色と共に記憶に残ったのはそのきれいさです。観光客が少なくなかったにもかかわらず、芝生でも浜でもペットボトルやティッシュペーパーなどのごみ一つもなく、日本人の環境意識と規則意識が高いからではないかと思います。

最後、白山ろく民俗資料館で感じたのは歴史と伝統を守って行きたい意志です。二、三百年前の家屋数軒や百年以来さまざまな農具、完璧と言えるほど保存されています。その翌日見学した漆器の工房でも、伝統にこだわる技術で、伝統を守りたい気持ちを込めて作った精巧な食器などを見て、その意志に感心しました。

この6日間、いろいろなことを見て、勉強になって、石川県の皆さんに心より感謝しています！

#### 南京田家炳高級中学2年 王馨媛

この度、江蘇省と石川県が共催する「少年の翼」交流活動に参加でき、大変光栄に思います。数日間で、美しい景色をたくさん見ることができ、責任感の強い引率の先生方や親切な石川県民の方々に会い、忘れられない素敵な思い出ができ、とても充実した時間を過ごしました。

初日は、短い交流活動がありました。日本の高校生と一緒に小さな神社を探し、無事見つけることができました！途中、お互いの高校生活についてたくさん話し、多くの文化の違いを感じることができ、とても面白かったです。活動終了前、同じ二次元作品が好きな女の子に出会い、連絡先を交換しました。今でも連絡を取り合っています。

2日目は、まず石川県庁を訪問し、知事とお会いしました。面会の前、県庁の展望ロビーに登り、金沢を一望し、とても美しい景色を眺めました。その後、知事との面会では、それぞれが自分の夢を紹介し、和やかで楽しい交流を行いました。知事は親切で温かな印象を与えてくださいました。それが終わった後は高校を訪問し、昼食は高校生たちと栄養バランスの取れたお弁当と一緒に食べ、午後は日本の高校生による能楽、三味線、合唱を鑑賞しました。その後、美術部の生徒の指導で「梅結び」作り（水引制作）を体験しました。偶然にも、彼女たちと同じく日本の美術大学への入学を目指して努力していることが分かり、とても嬉しかったです！校内で彼女たちが制作したデッサン作品も見ることができ、大いに刺激を受け、自分もさらに頑張らなければと思いました。高校を離れた後、和菓子作り

を体験し、その後、最も楽しみにしていたホームステイを迎えました！

とても温かい家庭で情熱的に迎えられました。石川県特産の和菓子、金箔キャンディ、九谷焼のコースター、そして手作りの水引結びをプレゼントしてくれました。対応してくれた日本の女の子は高校2年生で、驚いたことに、書道が得意で学校の書道部所属だということで、とても素晴らしいと思いました。私が手芸が好きだと知り、彼らは真剣に翌日からの1日半の「神秘の行程」を計画してくれ、期待に胸が膨らみました。

3日目の朝、ファミリーのご両親が私を日本三大名園の首位である兼六園に連れて行ってくれました。朝日の光が庭園に満ち、特に生き生きとしていて、一緒にたくさんの記念写真を撮りました。その後、その日本の女の子が通う高校に行きました。初めて日本の高校の文化祭に実際に参加でき、特に興奮しました。皆の歌やダンス、楽器の演奏を鑑賞し、かき氷も味わい、キャンパス全体が青春の活力に溢れていました。昼食は、九谷焼を販売する通りでカレーライスを食べ、叔母さんが九谷焼の器をととても気に入っていると教えてくれました。午後、最も楽しみにしていた神秘の行程が始まりました！まず、金箔皿に金箔を貼る工芸を体験し、その後、水引博物館を見学し、多くの精巧な水引作品を鑑賞しました。叔母さんによると、この二つの場所は私の趣味を聞いてわざわざ手配してくれたとのことで、大変感動しました。夜、家で小さな花火を上げ、とても楽しく、特に嬉しかったです。

4日目の朝、ホストファミリーが私を映画に連れて行ってくれました——ずっと見たかった「鬼滅の刃」の劇場版です。この夏休みに新しく公開された映画は世界中で大人気です。初めて日本の映画館に入り、サクサクしたポップコーンを食べながら「リスニング練習」をしました。楽しい時間はいつもあっという間に過ぎ、その後、一緒に昼食を食べてお別れをしました。連絡先を交換したので、これからも連絡を取り合うことができます。午後、水族館を見学し、様々な海洋生物を見ました。その中で、丸々としたアザラシが一番好きで、特に可愛かったです。

5日目の早朝、バスで海辺に行きました。果てしなく広がる日本海を前に、心がとてもリラックスしました。船で航行している時、カモメが船の周りを旋回し、非常に壮観な光景でした。その後、バスで石川県の田舎道を通り、間もなく千里浜に到着しました。砂浜を歩き、重なる波を眺めていると、突然見覚えのある姿を発見しました——銀貨クラゲです！これは私の作品集にインスピレーションを与

えてくれた生物で、まさか現実で出会えるとは思わず、驚きと感動でいっぱいでした。午後、白山市でロープウェイに乗りました。ロープウェイが次第に上昇し、郁郁蒼蒼とした（うっそうとした）森林を抜けると、街全体の景色が一望できました。夜、ホテルに戻り、皆で花火大会を鑑賞しました。華やかで美しい花火が空中で咲き、徐々に消えていく様子は、この活動も終わりに近づいていることを予感させました。

6日目、ついに最終日がやってきました。しかし、朝は大きな喜びがありました：漆器に絵を描く体験をしました。興奮して皿に雲と桜を描き、存分に腕を振りました。昼食は、ウサギをテーマにしたレストランで食事をし、可愛い子ウサギを撫でました。その後、石川県に別れを告げ、帰路につくため大阪に向けて出発しました。

この活動は、実り多い文化交流であるだけでなく、多彩で忘れられない旅でした。日本の友達ができ、日本人の日常生活を知り、石川県の唯一無二の風景と精巧な伝統工芸を目の当たりにしました。帰国後も、この貴重な経験を噛みしめずにはられません。

## 日本石川県訪問記：成長と温かみに満ちた旅

南京田家炳高級中学2年 奚子宸

江蘇省田家炳高等学校の代表として、日本石川県への訪問の旅に参加することができ、非常に光栄でした。これは父母から離れて独自に外国へ行く初めての経験でした。小松空港に到着した瞬間から、この旅は驚き、温かみと成長に満ちていて、一つ一つのエピソードが深く記憶に刻まれています。

日本石川県小松空港に到着した時、日本の添乗員・大澤さんとの初対面は非常に興味深いものでした。大澤さんは笑顔で「日本に来たことがありますか」と尋ねてきました。私は2018年に奈良へ行ってシカに餌をあげた経験を嬉しそうに話しましたが、誤った動詞を使ってしまいました。「餌をあげる」の代わりに「飼いました」（ペットを飼う意味）と言ってしまったのです。それを聞いた大澤さんは一瞬驚いた後、笑顔で「それでは、当時奈良で子猫や子犬を飼うようにシカを1匹飼ったのですか」と冗談を言いました。この小さなエピソードで、私たちの距離が一瞬縮まり、これからの旅への期待感も高まりました。

到着後の最初の食事で、大澤さんの小さな行動が印象的でした。食事の時、大澤さんは私たちと同じテーブルに座り、食べ終わった後、使った箸のプラスチック袋を丁寧に結んで捨てました。テーブルの清潔を保つだけでなく、ゴ

ミが散らばるのも防いでいたのです。この些細なことから、日本人が「清潔さ」と「秩序」を重視する姿勢が日常生活の中に自然に溶け込んでいることを初めて感じました。

石川県の風景はさらに驚かせてくれました。ここには東京や京都のような喧騒はないものの、日本のアニメのように癒しのある景色が広がっています。青い海がきらきら輝き、たくさん木々が青々と生い茂り、道端の農地は鮮やかな色をしています。どの景色もまるで念入りに色調整されたかのように彩度が高く、その中を歩くと、自分もアニメの登場人物になったような気持ちになり、手軽に撮った写真も一枚一枚素晴らしいものになりました。



2日目の行程は充実して忘れられないものでした。まず石川県立図書館を訪れました。に入った瞬間、その雰囲気引き寄せられました。みんな静かに順番に列を作り、すぐに席を見つけて読書に没頭していて、少しの騒ぎもありませんでした。図書館の中には一定の距離を置いて席が設置されているので、空間の快適さを保つと同時に、お互いに迷惑をかけないように配慮されていました。館内全体では、静かなページをめくる音やたまに足を運ぶ音だけが聞こえ、誰もがこの静けさを自覚的に守っているの、私も思わず足をそっと運び、声を低く抑えました。



その後、石川県知事にお会いしました。交流の時、私たちは日本語で自己紹介をしました。もともと緊張していた私ですが、知事の親しみやすい態度によってだんだんリラックスできました。知事は時折冗談を言って、雰囲気を非常に和やかにしてくれました。後で知ったのですが、この優しい知事はかつてレスラーだったということで、この対比がさらに親しみを感じさせました。写真を撮る時、知事は熱心に「私の象徴的なジェスチャーと一緒にしましょう」と誘ってくれました。私は幸運にも知事の右側に立つことができ、知事は私の肩を軽く叩いてくれました。その温かい励ましは今でも記憶に残っています。



その夜、ついにホストファミリーに会うことができました

た。レストランの隣の海は夜の光の中でさりげなく輝き、波の音が優しく耳に届き、この初対面にロマンチックな雰囲気添えてくれました。莉子さんと彼女の母親はもうそこで待っていて、優しい笑顔浮かべていました。その笑顔で、私の心の中の見知らぬ人に対する緊張感が一瞬で取り除かれました。

3日目は、莉子さんと彼女の母親の同行で、ゆったりとした観光を楽しみました。まず兼六園へ行きました。園内には亭台楼阁がちりばめられ、草木は精巧に手入れされていて、その中を歩くと、まるで古代の庭園にタイムスリップしたような気分になりました。ここで、訪問団のクラスメートに偶然会えたので、一緒に21世紀美術館とひがし茶屋街を巡りました。途中で、地元の特色あるアイスクリームも食べました。ちびまる子ちゃん味の甘さと抹茶味の濃厚さが口の中で混ざり合い、満足感に浸りました。



クラスメートたちと別れた後、莉子さんは「日本のバスと電車の乗り方を教えましょう」と積極的に提案してくれました。莉子さんの丁寧な説明で、私はすぐに切符の購入方法や乗り方を覚えることができました。最初は手も足も出なかったのですが、後では自分で路線を見分けられるようになり、この進歩が非常に嬉しかったです。その後、金沢駅の隣のデパートへ行き、一緒にクレーンゲームをしました。大きなクレヨンしんちゃんのぬいぐるみを幸運にもつかんだ時、莉子さんは私よりも嬉しそうに叫んでいました。この喜びを分かち合う瞬間で、国境を越えた友情を感じました。

夜、ホストファミリーの家に戻ると、莉子さんの母親はたくさん日本料理を用意してくれました。新鮮な刺身や精巧な寿司がテーブルいっぱい並び、一口食べるたびに食材の本来の美味しさを味わえて、大いに満足しました。

食後、家の前で花火を打ち上げました。最も驚いたのは、花火が終わった後、莉子さんの母親が鉄のバケツに水を満たし、燃



え残った花火のカスを全部水に浸けて火を消し、きちんと処理したことです。途中で勝手に捨てることは一度もありませんでした。この細かい点から、日本人は自分の生活の清潔さだけでなく、いつも他人や環境に迷惑をかけないよ

うに配慮していることを深く感じました。

石川県にいた残りの日々では、能登半島的水族館を訪れ、色とりどりの魚たちが水中を泳ぐ姿を見ながら、まるで海底の世界にいるような気持ちになりました。また白山市へ行き、山の清潔な空気と自然の美しさを感じました。どの場所に行っても、地元の人々の温かさと親切さを感じることができ、「細かい配慮」と「礼儀正しさ」をさらに多く見ることができました。例えば、大澤さんはバスの運転手さんやホテルのフロントスタッフと話す時も、いつも笑顔浮かべて柔らかい声で「ありがとうございます」と言います。図書館で列を作っている人々は、自発的に距離を保ち、押し合うことはありません。莉子さんと彼女の母親も、何をする時も先に他人に迷惑をかけないかどうかを考えています。

今回の訪問の旅は、私にとって非常に意義があるものでした。ホストファミリーとの付き合いや日常の交流を通じて、日本語の会話力が大幅に向上しました。最初はどこかぎこちなかったのですが、今ではすぐにコンビニやデパートで単独で



買い物をしたり、日本人と普通に日常会話をしたりすることができます。これは2年間の日本語勉強の成果を認められただけでなく、大きな自信も得ることができました。莉子さんと彼女の母親の温かさに心が満たされました。彼女たちはおいしい料理を用意してくれただけでなく、丁寧に選んだプレゼントもくれました。莉子さんは去年、私たちの南京田家炳高等学校を訪問したことがあり、彼女は興奮しながら中国での経験話し、中国がとても好きだと言ってくれました。この双方向の友好と誠実さに、非常に感動しました。

さらに重要なのは、この旅を通じて自分で問題を解決する能力を身につけ、「尊敬」と「責任」について深く理解することができました。石川県のゆったりとした生活リズムや人々の友好的な態度に、深く惹かれて、将来機会があればここで生活したり勉強したりしたいと思うようになりました。このような交流活動を通じて、中日両国の若者がお互いをよりよく理解し、友情の架け橋を作ることができると信じています。今後、私も中日関係の友好的な発展のために自分の力を尽くし、中国の若者の姿と大国の風格を示したいと思います。

## 南京田家炳高級中学2年 包小卓

8月21日午前、私と12人のクラスメートと3人の先生は上海のある空港で合流しました。今回の「少年の翼」中日交流活動を始めるためです。

今回のイベントで交流するのは石川県なので、出発前にインターネットで調べて石川県のことは知っていました。石川県は自然の風景がとても美しいところで、南部に山、北部に海、また様々な古い名所や文化があり、今回の交流活動に期待を持たせてくれました。

約2時間の飛行機に乗って、私達は石川県の小さな空港に着きました。飛行機を降りて税関を出て、私達は今回の活動の日本人ガイドの大澤さんと中国人通訳の朱さんと合流しました。大澤さんはとても活発で明るくて、親切で、すぐに私達の旅の中でとても仲の良い友達になり、自己紹介と簡単な挨拶のあと、到着がお昼すぎだったこともあり、まっすぐ昼食を食べに行きました。昼食会場に向かう途中、大澤さんが石川県の案内パンフレットと一人一人の名刺を配ってくれました。石川県の話を聞いているうちに、あっという間に昼食の場所に到着し、思いがけず最初の食事は焼肉ご飯でした。焼きたての能登牛が口に入れた瞬間とろけてしまい、次のスケジュールが待ち遠しくなりました。午後、私達は日本の伝統的なスタイルの家に来て、地元の高校生との交流ゲームを行いました。中国の学生2名と日本人の学生2名が一組となり、提示された写真の場所を見つけ出して写真を撮ってくるという任務をしました。幸い、私たちのグループは最初に写真の場所を見つけることができ、戻ってくる間、しゃべったり笑ったり、いろいろなことを話したり、いろいろな国籍の学生たちと打ち解けて遊んだりするときに壁は一切感じなくて、まるで同じ国の友達のような感じでした。

2日目のスケジュールは緊張感に満ちていました。朝早く、まず石川県立図書館を訪れました。この図書館は新しく改装されたもので、外は開いた本のように見えますが、中は現代的な芸術感に満ちています。私たちが図書館に到着した時はまだ開館前でしたが、すでに多くの人が、中で勉強するために並んでいました。9時になって図書館の中に入ると、中には少なくとも百万冊の本があり、たくさんの学生が自習していて、勉強の雰囲気はとても濃厚です。世界中の人が自分の将来のために頑張っていると思うと、私も若いうちに頑張って勉強して、日本の大学に合格したいと思いました。図書館を出てから、私達は石川県庁に向かいました。これはこの日の行程の中で最も緊張したものの一つで、学生の一人一人が自己紹介と挨拶をしなければなりません。地位が高い知事と話すことを想像しただけで鼓動が速くなりましたが、知事はとても親しみやすく、

緊張もいつのまにかなくなり、最後に知事から石川県の吉祥マスコット（加賀八幡起上り）をプレゼントしてもらい、一緒に記念撮影をしてから次の目的地に向かいました。それから、金沢辰巳丘高校に来て、高校生たちと日本の伝統的なお弁当を食べました。それから、芸能交流が始まりました。まず、生徒代表としてスピーチをして、その後、日本の生徒たちによる伝統的な能、伝統的な三味線、大合唱を見ました。私達も歌や踊り、武道を披露しました。それから別の教室に移動して、日本の高校生達と一緒に特色の小さなアクセサリ作りを体験しましたが、少し難しく、とても挑戦的でした。日本の高校の同級生達に別れを告げて、私達は悠久の歴史を持つ和菓子店で和菓子作りを体験しました。おじいさんのパティシエに従って少しずつ作り、私達も自分の和菓子を作りあげました。次はエキサイティングな瞬間、私達は海辺のレストランに来て、ここでホストファミリーの家族と会って、夕食を共有することになっています。その前に、私たちの何人かのクラスメートは海辺に来て、ホストファミリーの家族とうまく交流できるか、素晴らしい時間を過ごすことができるか、心の中で少し心配していました。しかし、心配はすぐに消えて、日没の黄昏時に、私たちのすべての学生は、ホストファミリーと合流し、夕食をともにしました。私のホストファミリーは、2人の中学生の姉妹、小学生の妹と幼稚園の弟です。私達は食べながら話してすぐに同じ趣味を持っていることを発見し、彼らが来年中国に遊びに来る計画があると知ってすぐに親しくなり、国際的な隔たりを感じなくなりました。話しているうちに夕食を食べ終わって、私はホストファミリーについて家に帰ると、おばあちゃんが出てきて私を迎えてくれました。おばあちゃんは更に親切で親しみやすく、その上料理の腕前は非凡で、そこから数日の食事はすべておばあちゃんが自分で料理をしてくれて、すべてがごちそうでした。夜、私たちはリビングルームで学校生活、将来のこと、趣味などについて話して、知らず知らずのうちに2時間以上が過ぎて、私たちは不本意ながら話を中断して、早く休んで、明日に向けた準備をしました。

3日目から4日目の昼が一番忘れられません。ホストファミリーの人たちは私をいろいろな場所に連れて行ってくれました。まず金沢21世紀美術館で一番有名なプールのような芸術品を見ましたが、私達はみんなこの芸術品をよく知らなかったのも、すぐに離れました。それから美術館の近くにある神社に行きました。その神社がなんとホストファミリーの弟さんのクラスメートの家だと聞いて、私はびっくりして、ホストファミリーと仲良くお参りをしました。それからアニメグッズを売る店にショッピングに来ました。前日の晩に私がアニメを見るのが好きなことに気づいて、わざわざ連れてきてくれて、私はとても興奮して、

しばらくもしないうちに大きい袋の商品を買いました。昼には家に帰っておばあちゃんの作ったカレーを食べ、簡単な休憩が終わってから、午後はひがし茶屋街に来ました。街は日本の伝統的な家屋ばかりで、金箔を売ったりかき氷を食べたりする店がたくさんあります。私たちは一人一つかき氷を食べましたが、このような暑い日に食べるかき氷は暑さを和らげるには最高です。ホストマザーが金箔のお土産を買ってくれて感激しました。続いて私たちは有名な観光地兼六園のナイターに行きました。私のクラスメートが午前中の兼六園の写真を共有してくれましたが、夜の兼六園は午前中と比べても遜色がありません。

4日目の午前中、今回の旅行の中で一番夢をかなえた行程でした。ホストファザーに連れられて映画館に来て、最新の鬼滅の刃無限城の映画を見ました。この映画が日本中で大ヒットしていると国内で注目していました。いつかぜひ日本で見てみたいと思っていたのですが、この日はポップコーンにコーラ1杯で、エキサイティングな映画を観て、こんな楽しい気持ちになったことはありませんでした。映画が終わったら一緒にデパートに行ってプリクラを撮って、家に帰っておばあちゃんの作ってくれたお好み焼きを食べるとそろそろお別れです。別れ際、中国から持ってきたお土産と、前日に作った手作りの和菓子を渡しました。わずか2日足らずで本当の家族のように親しくなりましたが、仕方ありません、旅は続きますので、ホストファミリーの皆さんとは県庁で最後のお別れをしました。お別れをするのがつらかったです。午後は能登島の水族館に来ました。水族館は去年の地震を経験しましたが、スタッフたちの努力で多くが修復され、館内ではイルカやアシカのショーや様々な海洋生物を見ました。その後、夕食を食べに行き、1日の日程を終えました。

5日目の午前、私達は能登半島に着いてヨットに乗って海に出て景色を見て、巖門を見て、船上でたくさんのカモメと交流しました。それから千里浜沿いで昼食をとり、午後は金沢市内で古い日本の建物を見学し、ホテルで休憩しました。この夜は私達の日本での最後の夜です。私達は何人かのクラスメートと一緒にホテルの温泉に入り、運よく花火大会を見ることができました。一緒に自販機の前で飲み物を飲みながら、ホームステイで経験した楽しい思い出を話しました。

最終日、午前中に私たちは山中漆器工場を見学し、漆器を手作りする体験をしました。学生たちはそれぞれの才能を発揮し、漆器の先生に褒められました。昼にウサギ園に来て、簡単な食事をしてウサギと交流した後、急いで空港に行き帰国の準備をしました。空港で私達は6日間お世話になった大澤さんに別れを告げましたが、今回の交流活動が終わるのがとても名残惜しかったです。

今回の交流活動は私たちの日本語レベルを鍛えただけで

なく、中日両国間の友情と友好往來を深めました。この活動を経て、私は、今後留学生として日本で生活することについて、思わず想像をめぐらせました。しっかり勉強して自分を高め、よい大学に入り、将来は中日友好のために一歩進んだ貢献をしたいと思います。

# 訪問を終えて 団長から

## 江蘇省「少年の翼」青少年代表団の石川県訪問総括

南京田家炳高級中学副校長 張 玉 清

### 一、活動時間と目的

2025年8月21日から26日まで、石川県知事の招待により、南京田家炳高級中学の教師・生徒14人は、江蘇省の「少年の翼」青少年代表団のメンバーとして石川を訪れました。

私は、団長として、同行の趙蓉先生、南京市外事弁公室の駱朦秘書と一緒に12名の高校生を引率し、今回の人文交流活動に参加しました。今回の訪問は、我が省と石川県との友好協定の枠組みにおける重点項目であり、没入型の文化体験、学校交流、ホームステイを通じて我々の青少年が日本の伝統文化と現代社会の魅力を深く感じ、国際的な視野を広げ、異文化交流のコミュニケーション能力を鍛えるとともに、石川県の青少年と真摯な友情を築き、中日両国の未来に理解の架け橋となることを目的とするものです。今回の訪問は円満に終了し、成果を収めました。

### 二、主な活動内容

今回の交流活動は内容が豊富で形式も多様で、主に以下の方面をカバーしています。

#### 1、教育交流と訪問

- ・昨年江蘇省を訪問した石川県の青少年との友好交流として、6つのグループに分かれ、ゲームを通じて親睦を深めました。最後は名残惜しかったですが、再会を楽しみにしています。
- ・石川県立金沢辰巳丘高校を訪問し、一緒に日本料理を体験し、同校の学生とお互いの興味関心について話したり、手工芸の授業を体験したり、交歓会でお互いの生徒が出し物を披露したりする中で距離を縮め、最後に記念撮影を行いました。
- ・石川県知事の歓迎を受けました。馳浩知事は、とても気さくで、正装で私たちを迎え入れてくれました。知事から歓迎の言葉のあと、交代でスピーチと自己紹介を行いました。知事は絶えず生徒と交流し、生活の中の問題について尋ねたり、生徒の日本語が上手なことを褒めたりしました。最後に、趙蓉先生が「金沢大学に総長推薦枠を設けることで、中日課程クラスの学生

の進学機会が増え、両地の教育における国際協力がさらに深まるのではないかと提案しました。

- ・実際に金沢大学を視察し、金沢大学の全貌と地理を把握し、金沢大学に設置されている学科と強みにも理解を深め、学生たちの受験を奨励しました。

#### 2、日本の伝統文化の体験

- ・金沢で有名な和菓子屋さんで和菓子の製作過程を体験しました。職人さんが何回も何回も手本を示してくれ、餡をどのように平らにして、丸く整えるか、どのように模様をつけるかなど、多くを学びました。
- ・守田漆器株式会社では、木製の器に漆で絵を描く体験を通じて漆器の制作を学びました。漆は汚染も毒性もない天然植物由来の塗料で、生徒たちは1時間以上かけて絵を描いたり、模写をしたり、色を塗ったり、それぞれの漆器はどれもとても綺麗に仕上がりました。

#### 3、ホームステイプログラム

- ・今回の活動の重要なイベントです。生徒12名は、石川県のホストファミリーの家に泊まり、生活をともにしながら、日本の家庭文化を体験し、週末を過ごしました。
- ・学生たちが各家庭の日常生活に参加し、例えば和食を準備したり、スーパーを見て回ったり、コミュニティのイベントに参加したり、公園や博物館・名所旧跡を散歩したり、日本の一般的な家庭生活の中で教室で学んだ日本語を実践し、ホストファミリーと深い友情を築きました。

#### 4、自然と人文見学

- ・のとじま水族館を訪れ、去年の能登半島地震の被害状況や海の動物の飼育や保護について知り、海洋動物と人間の素晴らしい関係を肌で感じました。
- ・白山地域の特色ある施設を訪れました。私たちは獅子吼高原に登り、平原の美しい景色を見下ろしました。白山地区の史跡見学では、織田家の歴史と発展の過程を学びました。

### 三、収穫と成果

- 1、交流活動の中で、私達は石川県の人々の親切さともてなしを感じました。石川県国際交流課の大澤主任主事と朱通訳はずっと私達に付き添い、活動を手配して、通訳をしてくださいました。小田課長をはじめ、多くのスタッフの温かいもてなしにとっても感動しました。
- 2、純粋な日本語環境下で、言語能力と異文化コミュニケーション能力の著しい向上がみられました。学生たちは当初緊張したり照れたりしていましたが、後半になると日常のコミュニケーションを積極的にスムーズにとれるようになり、リスニング能力も非常に鍛えられ、文化の違いの中での適切なコミュニケーションと表現方法を学びました。
- 3、国際友情の種をまいて、根を下ろす：生徒たちと日本の友人たちは、全く知らないところからとても仲良くなり、別れ際はとても離れがたく、お互いに連絡先を交換していました。国境を越えた友情は今回の活動の最も貴重な成果であり、将来の持続的な交流のための基礎となっていくでしょう。
- 4、個人の成長と独立性の増強：生徒たちは父母のもとを離れて、異国で1週間独立して生活し、学生の自立能力、適応能力と問題解決能力を大いに鍛えました。

### 四、おわりに

今回の「少年の翼」交流活動は大成功を収めました。単なる海外見学ではなく、深い文化交流の旅であり、中日青少年の相互理解と尊敬を大いに促進し、「世界の未来は青年たちに託されている。両国の青少年はまさに本物の民間大使であり、平和友好の使者である。」というコンセプトを完全に体現していました。石川県をはじめ、ホストファミリーと学校の皆さまの心のもったもてなしに心から感謝を申し上げるとともに、未来にわたってさらに多くの交流機会をもち、友情の翼が飛翔し続けることを期待します。

令和7年度「21世紀石川少年の翼」  
(中国・江蘇省青少年訪問団受入) 日程

	月 日	時 間	日 程	宿 泊 先 等
1 日 目	8月21日 (木)	9:20 12:35 14:00 15:30 18:30	上海浦東空港発 (MU557) 小松空港着 昼食 翼OB・OGとの交流会 (金沢学生のまち市民交流館) 夕食	ホテルマイステイズ 金沢キャッスル
2 日 目	8月22日 (金)	9:00 11:30 12:45 15:30 18:00	石川県立図書館 知事表敬 学校訪問 (金沢辰巳丘高校) 和菓子作り体験 (越山甘清堂) ホストファミリー対面式	ホームステイ
3 日 目	8月23日 (土)		ホームステイ	ホームステイ
4 日 目	8月24日 (日)	13:30 15:00 18:00	ホームステイ先から県庁集合 のとじま水族館 夕食	ホテルアリヴィオ
5 日 目	8月25日 (月)	9:00 10:30 11:30 14:00 18:00	巖門 千里浜 昼食 白山手取川ジオパーク (獅子吼高原→白山ろく民俗資料館→白峰地区) 夕食	ホテルアローレ
6 日 目	8月26日 (火)	10:00 12:30 13:30 18:00 21:30	山中漆器漆絵体験 (工房静寛) 昼食 関西国際空港へ移動 関西国際空港着 関西国際空港発 (HO1614)	

## 令和7年度「21世紀石川少年の翼」 (中国・江蘇省青少年訪問団) 名簿

### 管 理 員

NO.	区 分	氏 名	所 属
1	団 長	ちようぎよくせい 張 玉清	南京田家炳高級中学 副校長
2	指導員	ちようよう 趙 蓉	南京田家炳高級中学 教師
3	指導員	らくもう 駱 朦	南京市外事弁公室 三級主任科員(日本語通訳)

### 団 員

NO.	学 校	氏 名	学 年
1	南京田家炳高級中学	おうようみん 王 耀民	1 年
2	南京田家炳高級中学	り きんこう 李 欣航	1 年
3	南京田家炳高級中学	たい しじゅん 戴 子洵	1 年
4	南京田家炳高級中学	ごりょうえつ 呉 凌越	1 年
5	南京田家炳高級中学	かく じらく 郭 爾楽	1 年
6	南京田家炳高級中学	りん しかん 林 思翰	1 年
7	南京田家炳高級中学	ちようきょうしん 趙 卿辰	2 年
8	南京田家炳高級中学	り せつずい 李 雪瑞	2 年
9	南京田家炳高級中学	ちく しいん 竺 子茵	2 年
10	南京田家炳高級中学	おう けいえん 王 馨媛	2 年
11	南京田家炳高級中学	けい ししん 奚 子宸	2 年
12	南京田家炳高級中学	ほうしょうたく 包 小卓	2 年

※高級中学校は、日本の高等学校に相当する

## 海外県人会青少年育成交流事業（ブラジル派遣）

期間：令和7年8月3日(日)～8月12日(火)

### ブラジル連邦共和国の豆知識

- 面積  
851.2万km<sup>2</sup>
- 人口  
約2億1,200万人
- ブラジル石川県人会
  - ・設立 昭和12年4月
  - ・会員数 350家族



# 私たちのレポート 事前研修

## 事前研修

日 時 7月5日(土) 10:30~  
6日(日) 12:00  
場 所 石川県青少年総合研修センター  
内 容 団員証交付式  
オリエンテーション  
事前学習  
・ 派遣国について  
・ 語学講座  
・ 学校訪問の出し物決定  
・ 少年の翼OGによる講演  
・ 石川県移住家族会との懇談



団員証交付式



出し物（習字）の練習



石川県移住家族会副会長（中西さん）との懇談



ブラジルについての学習



ポルトガル語の練習



7月18日出発前知事表敬

# 1・2日目

8月3日(日)

9:30 小松空港集合  
10:00 結団式  
11:00 小松空港発(JL186)  
12:15 羽田空港着

17:15 羽田空港発(UA882)  
15:20 シカゴ・オヘア空港着  
21:20 シカゴ・オヘア空港発(UA845)

8月4日(月)

9:30 サンパウロ・  
グアルーリョス空港着  
14:00 シンバ・サファリ  
16:00 サンパウロ動物園

## 結団式

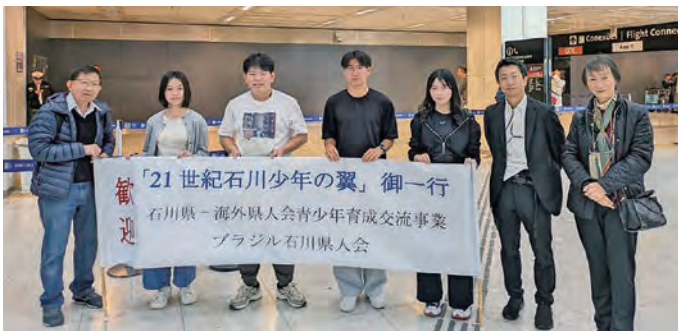
場 所 小松空港2階国際線出発ゲート付近  
次 第 団長挨拶  
石川県国際交流課参事兼課長補佐 辻野 賢司  
団員代表挨拶  
国立金沢大学附属高等学校2年 丸本 紗實  
石川県移住家族会副会長挨拶 中西 伸一



結団式



シカゴで乗り換え



サンパウロ到着



シンバサファリ



サンパウロ動物園



夕食 (1908 Coffee Station)

## 村上 馴征

石川県立金沢桜丘高等学校2年

小松空港を飛び立ち、シカゴ経由でブラジルに到着したのは約35時間後。機内や空港では、団員みんな思い思いの過ごし方をしてなんとか時間を潰していた。ブラジルに着いたみんなには疲労が見られたが、これから始まるブラジル研修に期待を膨らませていた。GRU空港で石川県人会の小堀さんとエリーナさんが出迎えてくれた。2人ともとても優しくお話をしてくれて、嬉しかった。

サンパウロ市中心部に向かう道中では、ストリートアートや落書きの多さに驚かされた。また交通量や人の多さからもブラジルが大国であることを感じた。到着した石川県人会の中には、和室や石川の伝統工芸品があった。夕食は、日本食レストランに県人会が連れて行ってくれた。味付けが濃かったり、不思議なかき揚げが出たりしたが、美味しかった。

# 3日目 8月5日(火)

7:30 サントス市へ移動

15:00 サントス海浜公園

9:30 モンチ・セハーの丘

・日本移民上陸記念碑

11:00 コーヒー博物館

・日本移民百周年記念碑



モンチ・セハーの丘



コーヒー博物館



日本移民百周年記念碑



日本移民ブラジル上陸記念碑



昼食 (Terraco Chopp)



夕食 (石川県会館でピザ)

## 丸本 紗實

国立金沢大学附属高等学校2年

高速道路に乗ってサントス市に向かった。天気はあいにくの曇りだったが、標高約800mから見下ろす風景は絶景だった。だが、霧がうっすらとかかっていたためか、どこか怪しげな雰囲気を感じた。

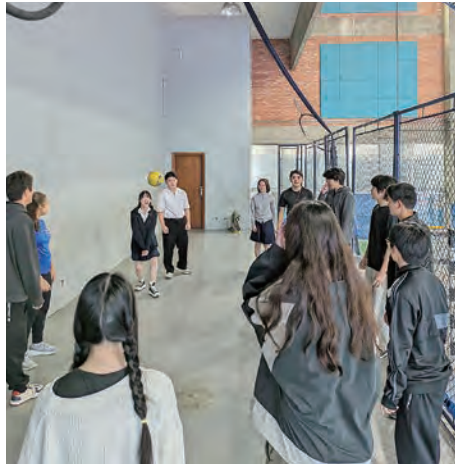
まず、モンチ・セハーの丘を訪れた。真っ赤なトロッコに乗って、遠くに見える展望台まで向かう。展望台に向かう道中では、房状に生っているバナナの木など熱帯気候で見られる植物を近くで観察できる。展望台からは所狭しと並ぶ住宅やビル、教会、貨物船が見えた。

次に訪れたのはコーヒー博物館。以前コーヒーの卸売市場として実際に使われていた歴史的な施設で、コーヒーを生産するために使われていた道具などが展示されていた。

午後は日本移民上陸記念碑を訪れた。日本人ブラジル移民90年を記念して建てられた銅像は遠くまで広がるブラジルの大地を指さしていた。また生のココナッツも頂くことができた。ナイフでココナッツの実に切り込みを入れてあるところにストローをさして飲んだ。味はというと、最初の方は爽やかでおいしいのだが、最後の方にかけてGREEN DA・KA・RAの味に似ている。

# 4日目 8月6日(水)

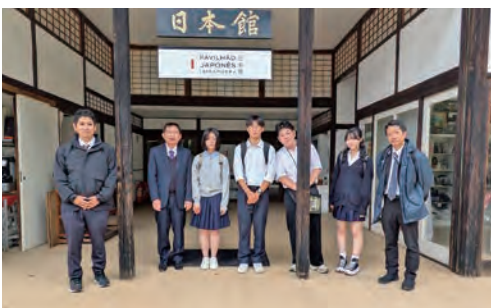
- 9:00 学校訪問(赤間学院ピオネイロ校)
- 14:00 ブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑  
日本館
- 16:00 イビラブエラショッピングセンター



学校訪問



ブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑



日本館



## 神渡 亜美

国立金沢大学附属高等学校1年

研修4日目、ブラジルの時差や気候にもすっかり慣れてきました。

この日、特に印象に残ったのはピオネイロ校の訪問です。学校に到着した時、学校の外観や内装、生徒たちの様子に強い驚きを感じました。交流が始まると、生徒の皆さんは温かく私たちの出し物を受け入れてくださり、特に書道パフォーマンスでは、生徒の名前を聞いたり会話を交わしたりする中で、ブラジルには多様な国の人々が暮らしていることを改めて実感しました。日本にいとあまり意識することはありませんでしたが、現地で日本文化が愛され、強い関心を持っていただけていることを知り、心から感動しました。

また、この日は開拓先没者慰霊碑にも訪れました。当時、日本から移住してきた人々が、多くの苦勞を乗り越えながら開拓に尽力された歴史を学び、同じ日本人として深い尊敬の念を抱きました。事前にブラジルや移民について調べてはいましたが、現地の方の声や歴史的建造物に直接触れることは、国際的な視野を大きく広げる貴重な機会となったと感じます。

# 5日目 8月7日(木)

- 9:00 セー広場 セー大聖堂
- 10:30 カタベント科学博物館  
市営中央市場
- 15:00 ブタンタン毒蛇研究所



セー大聖堂



セー広場



カタベント科学博物館



市営中央市場



カタベント科学博物館



ブタンタン毒蛇研究所

## 藤井 千明

石川県立七尾高等学校1年

研修5日目は、サンパウロ市の中心にあるセー教会を訪問した。厳かなゴシックの建築と静かで神秘的な空気に触れ、ブラジル人の大半がカトリック教徒だと聞いたこともあり、信仰が人々の生活の一部として深く根付いているということを実感した。

次に訪れたカタベント博物館では、科学や歴史を直接触れて学べる展示を見学した。遊びながら学べる仕組みは刺激的で、教育に活かす工夫を所々に感じた。

昼には市営市場を見学し、巨大な果物や香辛料が並ぶ光景に圧倒された。市場で物を売る人々の活気からは、多様な文化が交わるサンパウロの力強さが伝わってきた。

午後はブタンタン研究所を訪れ、毒蛇の研究や血清の開発現場を見学した。コロナワクチンの製造にも携わっていると聞き、人命を救うという研究に心惹かれた。

夕食にはシュラスコを味わった。芳醇な香りに加え、迫力のある味に驚いた。咀嚼して喉を通るまでの濃厚な時間が今でも頭から離れない。本場の味を通して食文化の豊かさを実感した。

宗教・科学・食文化のいずれにも触れられた5日目は、ブラジルを多面的に理解する貴重な機会となった。



夕食 (シュラスコ)

# 6日目 8月8日(金)

- 9:30
 リベルダーデ(日本人街)
  - 11:00
 ブラジル日本移民資料館
  - 14:00
 Japan House
  - 15:00
 Farol Santander展望台
- 16:00
 Casa das Rosas
- 19:00
- さよならパーティー
- 
- ホームステイ開始



東洋人街



昼食 (Nandemoya)



Farol Santander



ブラジル日本移民資料館



Japan House

## 村上 馴征

石川県立金沢桜丘高等学校2年

日本人街リベルダーデは、赤い鳥居や街灯、鮮やかなストリートアート、アジア系のマーケットが並んでいて、面白い街並みだった。スーパーには見慣れている日本の食品やお菓子が沢山あって、日本にいる様な、いない様な不思議な感覚を覚えた。昼食は、なんでも屋というお店で食べた。いろんな料理があっってお寿司もとても美味しかった。いちごの海苔巻きなどユニークなお寿司もあった。

展望台からは、見渡す限りビルが立ち並んでいるのが見えて、サンパウロが南米最大都市だということを実感できた。JAPAN HOUSEでは、展示や日本の文化の発信について説明を受けた。大阪万博にあるものと同じ展示も一部されていた。

そして、夜には県人会で、さよならパーティーと待ちに待ったホストファミリーとの対面式があった。団員みんな会う前は緊張してドキドキしていた。だが、食事をしながらお話ししてみると、とても話が弾んで楽しかった。



Casa das Rosasの横のカフェ



さよならパーティ



ホストファミリーと対面



### 丸本 紗實

国立金沢大学附属高等学校2年

昨日初めて対面したホストファミリーと過ごした。

午前中はスーパーやショッピングセンターに行って買い物を楽しんだ。どちらも店舗が大きく、品揃えも豊富だった。お土産用にブラジルのドリンク「ガラナ」を買うという目的も達成された。

午後はMASPに行って絵画を観た。ピカソやゴッゲンなどの有名画家の作品はもちろん、ブラジル出身の画家の作品も多く展示されていた。

夜は大学生のホストシスターのお友達とピザパーティーをした。ちなみに、8月10日は父の日だそうで、どんなプレゼントを渡そうかと話し合う賑やかな夕食だった。ピザを食べた後、CAN-CANというUNOとルールが似ているゲームをした。このゲームは大学生に人気のゲームだそうだ。パーティーは午前1時まで続いて、眠気の限界を突破した。ブラジルの高等学校生は夜ではなく早朝にパーティーを開くこともあるそうだ。

# 8・9・10日目

8月10日(日)  
 15:00 ホームステイ先から集合  
 21:00 サンパウロ・  
 グアルーリオス空港発  
 (UA148)

8月11日(月)  
 5:35 ニューヨーク・  
 ニューアーク空港着  
 10:30 ニューヨーク・  
 ニューアーク空港発  
 (UA131)

8月12日(火)  
 13:35 羽田空港着  
 16:50 羽田空港発  
 (NH755)  
 17:55 小松空港着  
 解団式



ホームステイ先から集合



サンパウロ出発



ニューヨークで乗り換え

## 解団式

場 所 小松空港1階  
 国内線搭乗ゲート付近

次 第 団長挨拶  
 石川県国際交流課参事兼  
 課長補佐 辻野 賢司  
 団員代表挨拶  
 石川県立金沢桜丘高等学校2年  
 村上 馴征



解団式

## 神渡 亜美

国立金沢大学附属高等学校1年

ブラジルでの研修もいよいよ最終日を迎えました。6日目から7日目にかけて2泊3日お世話になったホストファミリーの皆さんには、感謝の気持ちでいっぱいです。最初は言語や文化の違いに不安もありましたが、私のホストファミリーは日本が好きで、たくさん会話をしたり、日本のことを紹介したりするうちにすぐに打ち解けることができ、とても楽しい時間を過ごせました。

8日目はちょうどブラジルの父の日にあたり、ホストファミリーのお父さんのご実家にお邪魔し、ご親戚の皆さんとも交流させていただきました。前日からホストファミリーの女の子にポルトガル語を教えてもらっていたこともあり、少しではありますがポルトガル語で会話をすることができました。

現地の人と現地の言葉で話す喜びは格別で、とても楽しいひとときでした。また、ホストファミリーや従兄弟たちとブラジルのカードゲームで遊んだこと、伝統料理を囲みながら日本やブラジルについて話したことは、私にとってかけがえのない体験となりました。これらの思い出は、必ず再びブラジルに訪れたいという強い決意へとつながりました。

## 藤井 千明

石川県立七尾高等学校1年

研修最終日はサンパウロ・グアルーリオス空港からニューヨークを経由して帰国した。グアルーリオス空港から出国するとき、最後まで付き添っていただいた石川県人会の方々にとっても感謝した。別れが名残惜しかった。サンパウロからニューヨークまでの経由便は何故か短く感じられた。今回のブラジル派遣で初めて飛行機に乗ったが、行きですでに3回の搭乗を経験していたので、慣れたのだと思う。

ニューヨークにて、2度目の入国審査はあまり緊張しなかった。おそらくブラジルの雰囲気性が性根に根付いたのであろう。堂々と通過した。羽田空港に着いた頃にはもうへとへとだった。日本に帰ってきた実感が湧かず、日本の暑さに絶望した。

そして、小松空港に到着し、久しぶりに親の顔を見た。すかさず愛の抱擁。石川県人会の方々や石川県庁の辻野さん、徳田さんのおかげで怪我もなく無事に日本に帰ってこれたことを考えると、感謝してもしきれない。

# 交流の思い出

国立金沢大学附属高等学校1年 神渡 亜美

ブラジル研修は、私の人生観を大きく変えてくれたかけがえのない経験となりました。これまで自分が見ている世界がいかに限られたものであったかを痛感し、研修中は毎日のように驚きと感動の連続でした。帰国後も、自分の中に確かな変化が生まれたことを実感しており、その変化をどのように言葉にすればよいのか、今も模索し続けています。

研修を通じて特に印象に残ったのは、現地の人々の温かさや文化、そして社会の在り方です。研修では、ブラジル石川県人会の方々や現地の高校生、ホストファミリーなど、多くの人々と交流する機会をいただきました。交流した方々の多くは日本に強い関心を持っており、遠く離れた地で自国の文化が尊重されていることに大きな喜びを覚えると同時に、日本の良さを改めて再認識することができました。特に、日本の食文化やアニメについて質問を受けたときには、普段当たり前だと思っていたものが、海外では大切に受け止められていることに気づくことができました。

私がお世話になったホストファミリーは、10歳の女の子とご両親の3人家族でした。最初は言語や文化の違い、年齢差などに不安を抱えていましたが、温かく迎えてくださり、安心して生活を送ることができました。特に印象的だったのは、言葉を越えた交流です。ポルトガル語は事前研修で多少学んでいたものの、会話は思うように進まず、言語の壁を痛感しました。しかし、ホストファミリーの女の子が一つひとつ丁寧に教えてくれたおかげで、徐々に会話が弾むようになり、自然と笑顔が増えていきました。短い滞在期間ではありましたが、内容は濃く、別れが非常に辛かったのを覚えています。帰国後も連絡を取り合い、互いの日常を共有できていることは、遠い国に新しい居場所ができたように感じられ、大きな安心、喜びとなっています。

また、現地での生活を通じて、日本との違いを強く意識する場面もありました。その一つが教育制度です。「ブラジルには中学受験や高校受験がほとんど存在しない」と伺ったときは大きな衝撃を受けました。小学校

から高校まで受験を経験してきた私にとって、生徒がのびのびと学べる環境や、個性や特技を尊重する社会の姿は非常に新鮮であり、自分がこれまで狭い世界に縛られていたことを痛感しました。教育を通じて生徒が自由に成長していく様子を見て、社会全体が個人を支え合っているように感じられ、強い感動を覚えました。

さらに、日常生活そのものが大きな学びとなりました。現地で飲んだフルーツジュースや食べた料理の味、車の多さや道路の広さ、道端に生い茂る木々や野生動物、街の人々の挨拶の仕方、長年愛される国民的アニメ、その一つひとつが新鮮で、心に強く残りました。こうした何気ない体験の積み重ねが、日常生活の中にも学びや発見があることを教えたように思います。

また、忘れられないのはブラジルの人々の人柄です。市場や学校、博物館など、どこへ行っても明るく社交的で親切な方々と出会いました。日本ではなかなか経験できない人との距離の近さに触れ、人と人が支え合う社会の温かさを肌で感じました。

さらに、研修を共にした3人の高校生との関わりも大切な思い出です。初めての南米で不安を抱えながらも、互いに支え合うことで安心して研修を終えることができました。今思えば、滞在中はもちろん、空港での移動中も常に一緒に行動し、まるで以前から長く関わりがあったかのような居心地の良さを感じていました。そんな温かい居場所に出会えたことは大きな支えであり、これからも交流を続け、必ずまた4人でブラジルを訪れたいと強く願っています。

この研修を通じて得たものは、単なる思い出にとどまりません。日本の良さを再認識できたこと、心から明るく温かい人々と交流できたこと、教育や社会の違いを肌で感じたこと、そのすべてが私の今後の人生を支える糧になると考えています。そして私は研修を終えて、私は国際的に活躍できる職に就きたいと考えるようになりました。この目標を生み出してくれたのは、間違いなくブラジル研修での経験です。ブラジルに行かなければ得られなかった考え方や感性、自分の新たな居場所をこれから大切にしたいと思います。

最後に、このブラジル派遣に際しご支援・ご協力くださった石川県庁の皆さま、石川県人会の皆さまを

じめ、現地で温かく迎えてくださったブラジルの皆さま、本当にありがとうございました。

石川県立七尾高等学校1年 藤井 千明

ブラジル派遣で得た経験の中で、研修終了後の今でも強く心に残っているのは、人々の優しさと食文化を通じた交流である。言葉が完全に通じない環境に入ったことで最初は不安も大きかったが、実際に現地の人々と過ごす中で、それ以上に温かい気持ちに触れることができた。特に食卓を囲む時間は、ただ味を楽しむだけでなく、人と人とを結びつける力を持っていたように思う。

数ある料理の中でも最も印象に残っているのはパステウだ。これはホストファミリーに露店市場の「フェイラ」に連れて行ってもらった時に食べた料理だ。薄い生地は軽やかなパリッとした食感、中には具材の熱気と旨味が閉じ込められている。そして濃厚な具の味が一度に広がり、「もう一つ食べたい」と自然に思わせる魅力があった。もちろんもう一つ食べた。

「もう一つ食べていいよ！」と笑顔で差し出されたパステウを頬張った瞬間、料理の美味しさ以上に、人々の温かさに感動した。シュラスコの豪快さも忘れられない。大きな肉の塊をその場で切り分け、目の前に配られていく光景は圧巻だった。日本とは味付けが全く違うにも関わらず、この料理ですでにブラジルの味に慣れてしまった。市営市場で食べたモルタデーラサンドイッチの常識外れの厚みや、パパイヤの甘さも印象的だった。どの料理も力強く、鮮やかで、日本の食とはまた違った豊かさに満ち満ちていた。異国の味なのに不思議と体に馴染み、食べるほどに元気が湧いてくるようであった。

そして、ブラジルという国のスケールの大きさを強く感じた。料理のボリュームもそうだが、街の建物や施設の広さ、高さにもたびたび圧倒された。天井の高いセー教会の内部や、市営市場の広大な空間。どれをとっても、日本で見慣れたものとは次元が違っていた。そのスケール感に驚きながらも、同時に気づいたのは、そうした壮大さの中でブラジルの人々の優しきはむしろ

より際立っていたということだ。大きな空間や豪快な料理に囲まれても、人の笑顔や気遣いに1番感動し、心に残っている。

そしてこの温かさの背景には、日本人移民の存在があることを学んだ。百年以上前に異国の地へ渡った人々が、困難を乗り越えながら努力を積み重ね、信頼を築いた。その歴史があるからこそ、私たちもまた現地で石川県人会の方々やホームステイファミリーなどの人に歓迎され、交流を楽しむことができたのだと思う。

今回の派遣は私にとって初めての海外経験だった。文化も言葉も異なる場所に身を置き、戸惑うことも多かったが、人の優しさに支えられたことで、不安はすぐに楽しさへと変わっていった。食を通して文化の違いを知り、人の心に触れ、そして移民の歩みを学ぶことができた。この学びを糧として、研修グループや各種団体などに積極的に参加し、また、そのリーダーとして活動するように心がけ、常に広い視野を持って行動していきたい。

国立金沢大学附属高等学校2年 丸本 紗實

ブラジルに行くことは私にとって大きな挑戦だった。大変そうなことを極力避け、何かに挑戦しようとしないうまま、高校生活を1年過ごしてきた。高校に入ってからいきなり勉強ができる生徒たちに囲まれ、どんなに勉強しても私は到底追い越すことができないと思って、勉強もしたくなかった。1年位前から「心の底から何かを楽しむ」ということを忘れ去っていたのだ。

そんな経緯があってブラジル派遣に応募してみた。落ちて縁がなかったと割り切る覚悟はできていたが、これが自分を変えるきっかけになるのではと直感が働いていたため、そう簡単には諦めなくなかった。そうしたら、なんと受かってしまったのだ。結構驚いた。

着々と準備を進めていった。ホストファミリーに渡すお土産を買いに行ったり、スーツケースに荷物を詰めたり、かつてないほどの忙しさだった。

ブラジルに行く日が来るのはあつという間だった。小松からブラジル・サンパウロまでは乗り継ぎも含め

て35時間にわたる想像を絶する長旅だ。私にそんな長旅ができるのか心配になりながら、小松空港を出発した。だが、そんな心配は杞憂に終わり、機内で映画を見て、寝て、ご飯で起こされるサイクルを繰り返し続けたり、経由地のアメリカでお土産を買ったりと退屈な時間がなかった。

長旅の途中、機内から眺めるブラジルの大地は、明らかに今までに見たことのないものだった。始めは山と赤い砂が延々と続いていたが、サンパウロ市内に近づくとつれて、住宅や高層ビルが増えていった。日本と違い地震が起きないので、高層ビルは数えきれないほどあった。

サンパウロ空港の入国審査を無事に終え、ロビーに向かった。石川県人会の方が私たちをあたたかく迎えてくれた。覚えてたのポルトガル語であいさつ。そこからバスに乗り込み、5日間の市内見学が始まった。

石川県人会の方々には、サファリや毒蛇研究所、日本移民資料館、学校訪問、日本人街など私たちがいろいろなところに連れてってくださった。石川県人会の方は毎日朝早くから夜遅くまでサンパウロを案内してくださった。この場を借りて感謝を申し上げたい。本当にありがとうございました。

5日目の夜からはホームステイプログラムだった。私はポルトガル語も英語もたじたじで翻訳機に頼ることが多かったが、ホストファミリーは優しく受け入れてくれた。ホストシスターのお友達や親戚のご家族とも交流した。

これだけだとただ楽しく過ごしただけに聞こえてしまうから、何を学んで感じてきたか、書いておこうと思う。

まずは、日本人移民についてのことだ。1900年代前半に多くブラジルへ日本人が移民していったことは周知の事実である。私が今回実際に、日本人移民資料館に行ったり、県人会の方の話を聞いたりして、苦労があったから日本人はブラジルで成功したこと、そして知っている情報は一方から見た情報でしかないことに気づいた。

1908年、日本人移民を乗せた最初の船、笠戸丸がブラジルに上陸した。船内でマラリアなどの病気を患って亡くなり、ブラジルにたどり着けなかった方もいた

そう。そしてブラジルについてからすぐに成功したわけではなかった。「金の生る木がある」と聞いて希望を抱き、故郷に錦を飾ろうと思っていたが、実際には居住環境は悪く、労働状況も過酷だった。苦しくなった人々はコーヒー農場から脱走し、自分たちの農地を手に入れ、胡椒や茶などの栽培にも着手し、成功していった。

「たくさんの苦労があったが、諦めずに努力し続けることが大事だ。私もそうなりたい。」おそらくこれが日本で日本人ブラジル移民の歴史を学んだ時の感想だろう。当たり前だが、日本人であれば日本のことを主に学ぶ。だが、ブラジルの人は日本人をどう思っていたのか。反対側から見れば、見えるものも違う。

増え続ける日本人移民に対する人種差別や成功に対する妬みはあったようだ。日本人排斥の動きも高まっていったり、移民の同化政策を進めていった時代があったのは確かだ。また、日本人同士でも紛争が起こっていた。第二次世界大戦終戦後、日本の敗戦を認めない「勝ち組」と、ポルトガル語の新聞を読み正確な情報を把握していた「負け組」で日本人移民社会が分断していたことも、ブラジルに行き初めて知ることができた。

そして故郷は一つだけである必要はないということに気づいた。いつも「出身地はどこですか？」と聞かれると、生まれは金沢、長く住んでいたのは岩手だから、と返答に迷ってしまった。しかし、ブラジルで出会った方々は、初対面の私を温かく受け入れてくれた。「故郷」という言葉は、特定の場所・地名を指すが、もう1度会いたい人がいる場所が本当の故郷なのではないかと感じた。自分が過ごしてきた背景を肯定できた瞬間だった。

ここまで書いてきたが、このブラジル派遣の体験が今の自分にどのように生かされているのか、本当に生かされていくのかは、わからない。大学生になってそれを実感するかもしれないし、社会人になってからかもしれない。もしかしたら、自分の人生に生かすことができないかもしれない。しかし、ブラジルに行き県人会の方やホストファミリーに優しくしていただいたことは、派遣が終わった今でも心の中に残っている。その優しさをこれから出会う人たちに伝えていくこと

が、私の使命だと思っている。

最後に、10日間一緒に過ごし、私のポケに付き合ってくれた3人、私たちを安全に研修に連れて行ってくださった辻野さん、徳田さん。ありがとうございました。

私にこのような機会を与えてくださった、21世紀石川少年の翼に関わる全ての方々にお礼申し上げます。

#### 石川県立金沢桜丘高等学校2年 村上 馴征

今回のブラジル派遣研修の全てが、私にとって本当に刺激的で貴重な体験だった。事前研修、知事表敬などを通して、団員同士の仲もすぐ深まっていき、ブラジル現地での研修が楽しみで、ワクワクしていたのを覚えている。約35時間の、長距離移動を経て到着したブラジルでは、驚きと学びが沢山あった。特に印象に残った三つのことを挙げたい。

一つ目は、日本との違いだ。例えば、多くの建物の壁に落書きや鮮やかなストリートアートが描かれている。かなりの量の落書きがあるがクオリティの高いものもあって、眺めていると本当に楽しい。また、市場には豚の頭部や子豚が丸々売られていて、衝撃を受けた。

二つ目は、日本との深い繋がりを実際に自分の目で見て感じたことだ。スーパーやレストランには、日系人らしき人が沢山いて、サンパウロに日系人が多いということを実感できた。訪問した移民資料館や日本人街、JAPANHOUSEには、多くのブラジル人がいた。初めて日本人移民がブラジルに渡ってから100年以上経った今でも、ブラジルの人々の日本への関心が高いことに感銘を受けた。日本から遠く離れた反対側に、深い繋がりのある国があることに、感慨深くなった。

三つ目は、ブラジルの人々の人柄の明るさである。訪問したピオネイロ高校の同世代の生徒達が、積極的に話しかけてくれたのは本当に嬉しかった。日本でも流行っている「ちいかわ」がブラジルの女子の間でも人気なことには、なんだかほっこりした。県人会の方々も滞在中毎日楽しく会話してくれて、とても嬉しかった。会員のルーカスとのおしゃべりも、とても話

が弾んで楽しかった。ホストファミリーも興味深く日本の話を聞いてくれた。

そして、ブラジルでの出会いを大切にしたい。ホストファミリーや同世代の子達とSNSや手紙を通じて交流し続けていきたい。ブラジルを実際に訪れてみて、「いつかもう一度ブラジルに行く！」と心を決めた。英語やポルトガル語をもっと話せるようにして、現地の人達とさらに交流できたらよいと思う。ホストファミリーとも必ずまた会いたい。

研修を通して得た出会いや学び、思い出は、私にとって一生の宝である。自分の将来について考える良いきっかけになったし、視野が広がったはずだ。今回の研修を今後の自分の人生に活かしたい。

最後に、研修をサポートしてくださった石川県人会の方々、県庁の方々や携わってくれた全ての人に、感謝の気持ちでいっぱいだ。また、一緒に研修した団員3人にも感謝している。本当にありがとうございました。

南米へ移住した人々との未来への絆を繋ぐため、そして国際的な視野を持つ次代を担うリーダーの育成のために長年実施されてきた本事業ですが、今年度もブラジルへの10日間の派遣を無事に終了することができました。

本事業にご応募頂いた団員の皆さん、本事業の趣旨にご賛同頂き、送り出してくださった保護者の皆様、その他関係する全ての方々に心より感謝申し上げます。

特にブラジルでは、小堀会長、森永相談役、武部相談役、篠塚事務局長をはじめとするブラジル石川県人会の皆様方に移動や食事、学校訪問、ホームステイ等あらゆる面でお世話頂きました。管理員含め団員の高校生達をまるで親戚の子供達のように温かくお迎え頂いたことに重ねて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今回の派遣は、団員の皆さんにとって、とても有意義な時間になったと思います。ブラジルの街並みや食事、文化、習慣はどうでしたか？様々な人種の方が当たり前前に街中を歩く様子に何を思いましたか？自分と同じ高校生が流暢な英語で学校内を案内してくれる時に何を感じましたか？日系移民の歴史を学び、日本というルーツと文化を受け継いで生活する日系人の方々とお会いして、あなたは何を考えましたか？

皆さんはきっと今回の派遣を通じて、自分の価値観が変わり、視野が広がったと感じていると思います。それらを一時の想いではなく、自分自身の身近な行動に変えることで、次の挑戦に繋げて欲しいと思います。

1908年、ブラジルへの笠戸丸の到着から日本人移民の歴史は始まりました。多くの苦難を抱えながらも懸命に道を拓き続け、様々な分野でブラジルの発展に寄与し、現地でもその歴史と功績は評価されています。サンパウロで訪問した日系校は、“ピオネイロ(Pioneiro)＝開拓者”という名を冠していました。我々と同じ日本人が遠いブラジルの地で歩んだ足跡。サントスの美しい海岸で、ブラジルの広大な大地を指差す日本人移民像の姿が、いつか挑戦を続ける皆さんの背中を押すことを願います。

さて、冒頭で触れた「国際的な視野を持つ次代を担うリーダー」という言葉。似たようなフレーズは、学校などでよく耳にすることはあると思いますが、一体何が求められるのでしょうか？

皆さんがこれから生きるのは、当たり前前に多様な文

化と価値観が混在する世界です。相手との違いを理解し、尊重し合うというのは、言葉では分かっているも実際には難しいことです。多民族・多文化社会のブラジルを自分の目で見えてきたことは、社会がどうあるべきかを皆さん自身が考える一助になるかもしれません。

語学力はどうでしょうか？きっとブラジルで「もっと自由に話したい」と感じたと思いますし、その悔しさともどかしさを忘れずに、ぜひこれからも頑張っ語学を勉強して欲しいと思います。そしてその語学力を使って、ぜひ、色々な人と出会い、よく学び、たくさんのかたちを経験してください。

あともう一つ。ブラジルと日本との違いを感じた時、我々が住む日本という国に対して新しい気付きがありませんでしたか？違う国、違う言葉、違う文化に自身が置かれた時。国が変われば、常識も正解も変わります。海外で抱く周囲との違和感。それらの一つ一つは我々に、「自分は一体何者なのか？」という問いを強烈に突き付けています。

民族、歴史、宗教、芸術、経済、時事。あるいは住んでいる町、コミュニティ、友人、恋人、家族。自分が大切にしている価値観は？日本の文化、精神性とは？そして、日本人とは？

ぜひ、色々なことを考え続けてください。それらを考え続ける中で、きっと皆さん自身の「自分らしさ」が見えてくると思います。また今回ブラジルで日系人の方々の歴史や生活に触れることが出来たことは、皆さんがいつか自身のルーツとアイデンティティについて考える時に役に立つのではないかと思います。

いつか海外で過ごす時、異なった信条や歴史観を持つ人にも出会います。不慣れな言葉、周囲の人間や環境とのギャップに孤独を感じ、逃げ出したくなることもあるでしょう。けれども、この国に生まれ育ったアイデンティティと自身の価値観を肯定し、「自分らしさ」に自信と誇りを持って世界に強く踏み出して欲しいです。それが一番大切なことだと私は思います。頑張ってください。

皆さんがこれから歩む可能性に溢れた未来に私は期待しています。そして将来、皆さん自身の翼で大海を渡る日が来ることを願っています。いつか皆さんが歩んだ道のりを教えてください。また会いましょう！

(石川県文化観光スポーツ部国際交流課  
主任主事 徳田 章人)

# 色紙よせがき

ブラジルでの大歓迎、  
本当にありがとうございました。  
 . した。この経験はまことに僕  
 . 人の人生の中で、とても有意義なもの  
 . となつたと思います。またブラ  
 . ジルで会うことを楽しみに  
 しています。Obrigado。  
 七尾高校一年  
 藤井千明

短い期間でしたが、大変  
お世話になりました。日本では経験  
できないことばかりでした。ブラジルと  
日本は距離は遠いですが、つながっている  
ということを知れて嬉しかったです。また  
ブラジルに必ず行きます！  
 Muito Obrigado!  
 金沢大学附属高校二年  
 丸本 紗實

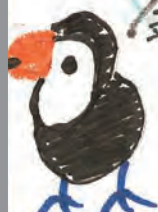
# Muito Obrigado

## ありがとうございました



ブラジルで過ごした日々は  
本当に刺激的で、貴重な  
体験ができました。  
温かく出迎えてくれて、毎日の  
研修をサポートしてくれた保人会の  
みなさんには感謝しかありません。  
大好きなブラジルにいつか必ず  
もう一度行きます！  
 Muito Obrigada!!  
 金沢桜丘高校二年  
 村上 剛征

ブラジルに欠けて、私の人生は  
本当に大きく変わりました。二  
人柄の良、食べ物、味、道路、  
フルーツ、Monica などが楽しかったです。  
ほど「涙」のものに感動しました。二  
日本に帰ってからも、ブラジルに信頼の  
できる人がいる、というだけで「安心」感  
があります。私の人生を変えてくれた  
ブラジルにいつか絶対行きます。  
 Muito Obrigada!  
 Eu amo o Brasil!  
 金沢大学附属高校一年 神森 麗美



令和7年度「21世紀石川少年の翼」  
(海外県人会青少年育成交流事業 ブラジル派遣) 日程

	月 日	時 刻	日 程	宿 泊 先
1 日 目	8月3日 (日)	9:30 10:00 11:00 12:15 17:15 15:20 21:20	小松空港集合 搭乗手続き 結団式 小松空港発 (JL186) 羽田空港着 羽田空港発 (UA882) ※フライト時間:12時間5分 シカゴ オヘア空港着 シカゴ オヘア空港発 (UA845) ※フライト時間:10時間10分	(機中泊)
2 日 目	8月4日 (月)	9:30 13:00 14:00 16:00 19:30	サンパウロ グアルーリョス空港着 昼食 (石川県会館でお弁当) シンバ・サファリ サンパウロ動物園 夕食 (1908 Coffee Station)	TRYPホテル
3 日 目	8月5日 (火)	7:30 9:30 11:00 12:30 15:00 19:00	サントス市へ移動 モンチ・セハーの丘 コーヒー博物館 昼食 (ポルシャ島 Terraco Chopp) 日本移民上陸記念碑 日本移民百周年記念碑 サントス海浜公園 夕食 (石川県会館でピザ)	TRYPホテル
4 日 目	8月6日 (水)	9:00 13:00 14:00 16:00 19:00	学校訪問 (赤間学院ピオネイロ校) 昼食 (ショッピングセンター内) ブラジル日本移民開拓先没者慰霊碑 日本館 イビラプエラショッピングセンター 夕食 (イタリアン Osteria Generale)	TRYPホテル
5 日 目	8月7日 (木)	9:00 10:30 12:00 15:00	セー広場 セー大聖堂 カタベント科学博物館 市営中央市場内で昼食 ブタンタン毒蛇研究所 夕食 (シュラスコ D'Brescia)	TRYPホテル
6 日 目	8月8日 (金)	9:30 11:00 12:00 14:00 15:00 16:00 19:00 21:00	東洋人街 ブラジル日本移民資料館 昼食 (Nandemoya) Japan House Farol Santander展望台 Casa das Rosas カフェ さよならパーティ ホームステイプログラム	ホームステイ

	月 日	時 刻	日 程	宿 泊 先
7 日 目	8月9日 (土)	終日	ホームステイ	ホームステイ
8 日 目	8月10日 (日)	15:00 21:00	ホームステイ先から集合 サンパウロ グアルーリョス空港発 (UA148) ※フライト時間: 9時間35分	(機中泊)
9 日 目	8月11日 (月)	5:35 10:30	ニューヨーク ニューアーク空港着 ニューヨーク ニューアーク空港発 (UA131) ※フライト時間: 14時間15分	(機中泊)
10 日 目	8月12日 (火)	13:35 16:50 17:55	羽田空港着 羽田空港発 (NH755) 小松空港着 解団式	

上記は全て現地時間 各都市との時差は下記の通り

シカゴは日本より14時間遅い ニューヨークは日本より13時間遅い サンパウロは日本より12時間遅い

(日本: UTC+9 シカゴ: UTC-5 ニューヨーク: UTC-4 サンパウロ: UTC-3) ※UTC Universal time coordinated (協定世界時)

令和7年度「21世紀石川少年の翼」  
(海外県人会青少年育成交流事業 ブラジル派遣団) 名簿

管 理 員

NO.	区 分	氏 名	所 属
1	団 長	辻 野 賢 司	文化観光スポーツ部国際交流課 課参事兼課長補佐
2	指導員	徳 田 章 人	文化観光スポーツ部国際交流課 主任主事

団 員

NO.	学 校	氏 名	学 年
1	国立金沢大学附属高等学校	神 渡 亜 美	1 年
2	石川県立七尾高等学校	藤 井 千 明	1 年
3	国立金沢大学附属高等学校	丸 本 紗 實	2 年
4	石川県立金沢桜丘高等学校	村 上 馴 征	2 年

## 「21世紀石川少年の翼」これまでのあゆみ

### 韓国・全北特別自治道

回	年 度	派 遣				受 入	
		日 程	団 長	副 団 長	参加人数	日 程	参加人数
1	昭和61年度	8月4日(月)～8月8日(金)	中 西 知 事	吉田教育次長	100	—	—
2	昭和62年度	8月3日(月)～8月7日(金)	杉山副知事	善 局 長	100	—	—
3	昭和63年度	8月5日(金)～8月9日(火)	中 西 知 事	吉田参 与	125	—	—
4	平成元年度	8月9日(水)～8月14日(月)	中 西 知 事	吉田参 与	92	7月27日(木)～8月2日(水)	61
5	平成2年度	8月8日(水)～8月13日(月)	杉山副知事	山田局 長	90	7月26日(木)～7月31日(火)	110
6	平成3年度	8月7日(水)～8月12日(月)	肥田教育長	柏木局次長	110	7月25日(木)～7月30日(火)	110
7	平成4年度	8月5日(水)～8月10日(月)	中 西 知 事	寺西局 長	110	7月23日(木)～7月28日(火)	98
8	平成5年度	8月5日(木)～8月10日(火)	太田副知事	佐藤県参事	110	7月22日(木)～7月27日(火)	118
9	平成6年度	8月5日(金)～8月10日(水)	谷本知事	山岸局 長	111	7月27日(水)～8月1日(月)	164
10	平成7年度	8月6日(日)～8月11日(金)	山岸局 長	—	104	7月26日(水)～7月31日(月)	114
1	平成8年度	8月4日(日)～8月9日(金)	竹部教育参事	越島局次長	75	7月24日(水)～7月29日(月)	86
2	平成9年度	8月3日(日)～8月8日(金)	中山教育次長	—	62	7月23日(水)～7月28日(月)	85
3	平成10年度	8月9日(日)～8月14日(金)	北川局 長	—	71	7月29日(水)～8月3日(月)	77
4	平成11年度	8月8日(日)～8月13日(金)	倉本教育次長	—	66	7月28日(水)～8月2日(月)	70
5	平成12年度	8月6日(日)～8月11日(金)	上乘教育次長	—	50	7月26日(水)～7月31日(月)	50
6	平成13年度	8月8日(水)～8月13日(月)	村井教育次長兼学校指導課長	—	47	7月25日(水)～7月30日(月)	50
7	平成14年度	8月7日(水)～8月12日(月)	鹿野教育センター所長	—	37	7月24日(水)～7月29日(月)	41
8	平成16年度	7月23日(金)～7月28日(水)	金田教育次長	—	18	8月6日(金)～8月11日(水)	20
9	平成17年度	7月22日(金)～7月27日(水)	太田課 長	—	14	8月3日(水)～8月8日(月)	17
10	平成18年度	8月4日(金)～8月9日(水)	豊原課 長	—	16	7月26日(水)～7月31日(月)	20
11	平成19年度	7月25日(水)～7月30日(月)	井川寺井高校長	—	14	8月8日(水)～8月13日(月)	12
12	平成20年度	8月8日(金)～8月13日(水)	三国局 長	—	15	7月30日(水)～8月4日(月)	15
13	平成21年度	8月19日(水)～8月24日(月)	田西課 長	—	23	—	—
14	平成23年度	8月5日(金)～8月10日(金)	北村次 長	—	13	—	—
15	平成24年度	—	—	—	—	8月8日(水)～8月13日(月)	12
16	平成25年度	7月26日(金)～7月31日(水)	木島課 長	—	13	—	—
17	平成26年度	—	—	—	—	7月23日(水)～7月28日(月)	13
18	平成28年度	7月29日(金)～8月3日(水)	戒田課参事兼課長補佐	—	8	—	—
19	平成29年度	—	—	—	—	8月4日(金)～8月9日(水)	12
20	平成30年度	7月27日(金)～8月1日(水)	北川課参事兼課長補佐	—	12	—	—
21	令和元年度	—	—	—	—	1月17日(金)～1月22日(水)	8
22	令和5年度	8月2日(水)～8月7日(月)	馳 知 事	—	12	—	—
23	令和6年度	—	—	—	—	7月26日(金)～7月31日(水)	12
24	令和7年度	7月25日(金)～7月30日(水)	小田課 長	—	12	—	—

- ※1 平成7年度までは、「日韓少年交流事業」として実施  
 ※2 交流団体は、昭和61年度～平成9年度は「世界文化交流協会」、平成10年度～は「韓国青少年連盟」、平成16年度～は「韓国青少年全北連盟」、平成28年度～は「全羅北道庁国際協力課」  
 ※3 全北特別自治道への派遣は平成12年度から、受入は平成16年度から実施 ※4 平成15年度は新型肺炎(SARS)の影響により中止  
 ※5 平成21年度は新型インフルエンザの影響により受入を中止 ※6 平成27年度は中東呼吸器症候群(MERS)の影響により中止  
 ※7 令和2・3・4年度は新型コロナウイルスの影響により中止(令和3・4年度はオンラインでの実施)

中国・江蘇省

回	年 度	派 遣				受 入	
		日 程	団 長	副 団 長	参加人数	日 程	参加人数
1	平成8年度	8月5日(月)～8月10日(土)	谷 本 知 事	山 岸 局 長	20	7月23日(火)～7月28日(日)	8
2	平成9年度	8月9日(土)～8月14日(木)	山 岸 局 長	—	20	7月23日(水)～7月28日(月)	8
3	平成10年度	8月16日(日)～8月21日(金)	中 村 教 育 次 長	—	20	7月29日(水)～8月3日(月)	8
4	平成11年度	8月15日(日)～8月20日(金)	中 西 局 長	—	12	7月28日(水)～8月2日(月)	8
5	平成12年度	8月13日(日)～8月18日(金)	東 局 次 長	—	20	7月26日(水)～7月31日(月)	8
6	平成13年度	8月5日(日)～8月10日(金)	中 西 局 長	—	19	7月25日(水)～7月30日(月)	8
7	平成14年度	8月4日(日)～8月9日(金)	大 井 局 長	—	16	7月24日(水)～7月29日(月)	8
8	平成16年度	7月24日(土)～7月28日(水)	竹 中 次 長	—	16	8月5日(木)～8月10日(火)	8
9	平成17年度	7月24日(日)～7月29日(金)	山本国際交流協会専務	—	5	8月2日(火)～8月7日(日)	10
10	平成18年度	8月3日(木)～8月8日(火)	山 口 県 参 事	—	5	7月20日(木)～7月25日(火)	10
11	平成19年度	7月24日(火)～7月29日(日)	豊 原 課 長	—	8	8月7日(火)～8月12日(日)	8
12	平成20年度	8月3日(日)～8月8日(金)	岩本学校指導課長	—	5	7月24日(木)～7月29日(火)	8
13	平成21年度	8月20日(木)～8月25日(火)	八十田七尾高校長	—	6	8月6日(木)～8月11日(火)	8
14	平成22年度	—	—	—	—	8月19日(木)～8月24日(火)	8
15	平成23年度	7月28日(木)～8月2日(火)	田西国際交流協会専務	—	10	—	—
16	平成24年度	—	—	—	—	7月26日(木)～7月31日(火)	8
17	平成25年度	7月26日(金)～7月31日(水)	田西国際交流協会専務	—	4	—	—
18	平成26年度	—	—	—	—	7月24日(木)～7月29日(火)	8
19	平成27年度	7月30日(木)～8月4日(火)	藤 村 課 長	—	5	—	—
20	平成28年度	—	—	—	—	7月21日(木)～7月26日(火)	8
21	平成29年度	8月3日(木)～8月8日(火)	戒田課参事兼課長補佐	—	8	—	—
22	平成30年度	—	—	—	—	7月26日(木)～7月31日(火)	8
23	令和元年度	7月25日(木)～7月30日(火)	戒 田 課 長	—	8	—	—
24	令和5年度	—	—	—	—	7月26日(水)～7月31日(月)	8
25	令和6年度	8月1日(木)～8月6日(火)	沖 野 課 長	—	12	—	—
26	令和7年度	—	—	—	—	8月21日(木)～8月26日(火)	12

※1 交流団体は、「中国江蘇省人民対外友好協会」 ※2 平成15年度は新型肺炎（SARS）の影響により中止  
 ※3 令和2・3・4年度は新型コロナウイルスの影響により中止（令和3・4年度はオンラインでの実施）

ロシア・イルクーツク州

回	年 度	派 遣			受 入		
		日 程	団 長	副 団 長	参加人数	日 程	参加人数
1	平成10年度	-	-	-	-	7月29日(水)～8月5日(水)	9
2	平成11年度	8月13日(金)～8月20日(金)	大蔵教育次長	-	8	-	-
3	平成12年度	-	-	-	-	7月21日(金)～7月28日(金)	11
4	平成13年度	8月17日(金)～8月24日(金)	東局次長	-	8	-	-
5	平成14年度	-	-	-	-	7月19日(金)～7月26日(金)	10
6	平成16年度	7月31日(土)～8月7日(土)	新宅局長	-	9	-	-
7	平成17年度	-	-	-	-	7月30日(土)～8月6日(土)	10
8	平成18年度	7月29日(土)～8月5日(土)	上田金沢泉丘高校長	-	8	-	-
9	平成19年度	-	-	-	-	8月5日(日)～8月12日(日)	8
10	平成20年度	8月4日(月)～8月11日(月)	向峠次長	-	8	-	-
11	平成22年度	8月1日(日)～8月6日(金)	良澤課参事兼課長補佐	-	8	-	-
12	平成23年度	-	-	-	-	8月5日(金)～8月12日(金)	7
13	平成24年度	8月3日(金)～8月11日(土)	北村次長	-	10	-	-
14	平成25年度	-	-	-	-	7月22日(月)～7月29日(月)	8
15	平成26年度	8月1日(金)～8月9日(土)	清水次長	-	10	-	-
16	平成27年度	-	-	-	-	7月22日(水)～7月29日(水)	8
17	平成28年度	8月2日(火)～8月9日(火)	藤村課長	-	9	-	-
18	平成29年度	-	-	-	-	7月23日(日)～7月29日(土)	7
19	平成30年度	7月31日(火)～8月7日(火)	坂井課長	-	8	-	-
20	令和元年度	-	-	-	-	7月21日(日)～7月28日(日)	9

※1 交流団体は、「ロシアイルクーツク州政府」 ※2 平成15年度は新型肺炎(SARS)の影響により中止  
 ※3 平成21年度は新型インフルエンザの影響により中止 ※4 令和2・3年度は新型コロナウイルスの影響により中止(令和3年度はオンラインでの実施)

ブラジル

回	年 度	派 遣			受 入	
		日 程	団 長	参加人数	日 程	参加人数
1	平成18年度	-	-	-	1月20日(土)～1月29日(月)	4
2	平成19年度	7月27日(金)～8月3日(金)	三国局次長	4	-	-
3	平成20年度	-	-	-	1月11日(日)～1月21日(水)	6
4	平成21年度	8月19日(水)～8月29日(土)	良澤課長補佐	4	-	-
5	平成22年度	-	-	-	1月10日(月)～1月19日(水)	5
6	平成23年度	8月3日(水)～8月11日(木)	木島課参事兼課長補佐	5	-	-
7	平成24年度	-	-	-	1月14日(月)～1月23日(水)	4
8	平成25年度	7月31日(水)～8月8日(木)	中山課長補佐	6	-	-
9	平成26年度	-	-	-	1月12日(月)～1月22日(水)	4
10	平成27年度	7月29日(水)～8月6日(木)	中山課参事兼課長補佐	4	-	-
11	平成28年度	-	-	-	1月9日(月)～1月18日(水)	4
12	平成29年度	7月25日(火)～8月3日(木)	坂井国際交流課長	4	-	-
13	平成30年度	-	-	-	1月14日(月)～1月23日(水)	4
14	令和元年度	7月31日(水)～8月9日(金)	北川課参事兼課長補佐	4	-	-
15	令和6年度	-	-	-	1月13日(月)～1月22日(水)	4
16	令和7年度	8月3日(日)～8月12日(火)	辻野課参事兼課長補佐	4	-	-

※1 派遣の交流団体は、「ブラジル石川県人会」  
 ※2 受入は、「海外県人会青少年育成交流事業」として、「ブラジル石川県人会」、「マナウス石川県人会」、「アルゼンチン石川県人会」から受入  
 ※3 令和2・3・4年度は新型コロナウイルスの影響により中止。令和5年度は能登半島地震の影響により中止。

## 令和7年度「21世紀石川少年の翼」実行委員会委員名簿

職 名	氏 名	備 考
石川県文化観光スポーツ部長	戒 田 由香里	委 員 長
石川県市長会事務局長	鳥 倉 俊 雄	監 査 委 員
石川県町長会事務局長	中 谷 安 孝	”
石川県高等学校長協会会長	岡 橋 勇 侍	委 員
石川県小中学校長会理事	大 下 佳 宏	”
石川県健民運動推進本部事務局長	山 若 真由美	”
石川県教育委員会学校指導課長	樋 口 勝 浩	”
石川県教育委員会生涯学習課長	小 山 内 裕 之	”
石川県少子化対策監室子育て支援課長	奥 村 優 子	”
石川県文化観光スポーツ部国際交流課長	小 田 陽 児	事 務 局 長

(以上10名)



21世紀石川少年の翼  
交 流 事 業 報 告 書

令和7年度 21世紀石川少年の翼交流事業報告書

発 行 「21世紀石川少年の翼」実行委員会  
(石川県文化観光スポーツ部国際交流課内)

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地  
TEL 076-225-1382 FAX 076-225-1383  
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kokusai/>  
Eメールアドレス e200500@pref.ishikawa.lg.jp